

どどど企画

# 全訂版・アルプスの少女刑事ハイジ

作・演出 萬野 展

## 登場人物

ハイジ・コーネル 少女刑事

クララ・レビンソン ハイジの親友

リンドバーグ 警部

T・ヤマグチ 主任刑事

J・J・ラツシャー 神父

リー・イシバシ 考古学教授

ダ・シール 発掘家

ケンプレン 農夫

コレット 妖怪愛護主義者

マリー・ルイーゼ・フォン・フランツ 肉体派詩人

楊振寧 山荘管理人

エドモン・ダンテス セールスマン

イシバシ夫人 博物館管財人

キルケニー 双頭の妖怪

チョンチョンA/B/C 妖術を使う凶暴な妖怪

ウーフニツク 救世妖怪

ゴダロ 岩の妖怪

ア・バオ・ア・クー 青い影の妖怪

バルトアンデルス 時間の妖怪

警官A/B/C

ベルナール 怪盗

## プロローグ

深夜。都会の博物館の一室。中央奥の台座に、古代文字の刻まれた石塔片が安置されている。その周りを警官隊が取り囲んでいる。警備指揮は老練をもって鳴る名警部リンドバーグと主任刑事ヤマグチのコンビ。博物館を管理するイシバシ女史は不安を隠しきれない面持ちで両手を固く握り合わせて立ち尽くし、今まさに予告の時間が迫る。

時計台の鐘の音が重々しく鳴り響き、一同に緊張が走る。と、室内の電灯が瞬き、一瞬の暗闇。そして何事もなかったかのような静寂。しかしその時すでに台座の上の石塔片は影も形もない。

卒倒するイシバシ女史を抱きとめるヤマグチ刑事。呆然とする警官隊に形相さまざまに指示を与えるリンドバーグ警部。室内を探索するもの、外へ飛び出し知らせに走るもの。部屋は騒然たる様相を呈し、やがて警官隊は、警部・刑事の号令のもと、二人を先頭に外へと飛び出し、残るは床に崩れ膝をついたイシバシ女史のみ。

部屋に静寂が戻る。イシバシ女史が台座をコツコツと叩く。その顔に先の動揺の色は毛ほども見えない。

台座の中で鏡のような板がすつと動くと、最初と変わらぬ位置に石塔片は立っている。イシバシ女史は、台座の扉を開き、石塔片をその手に取る。台座の一部がポツカリ窓のように開く。その小さな暗闇から手袋をした手が伸び、女史の手から石塔片を受け取る。台座の奥へと消える。イシバシ女史はその間油断なく戸口の様子をうかがい、警官隊が戻ってはこぬかと耳をそばだてている。

再び手が伸び、イシバシ女史の髪に触れる。頬、顎と、慈しむように愛撫し、その手は彼女の首まで這い降りる。手に力がこもる。イシバシ女史の表情が驚愕から恐怖へ、そして苦悶へと移っていく。手は二本に増えてがっしりと首をつかみ、彼女の反抗の力を確実に奪っていく。

手が離れ、女史の体は床に崩れ落ち、二度と動かない。手は台座の窓の暗闇に消える。一呼吸の静寂の後、台座は一瞬に四方に分解し、その中に隠れていた人物は、マントの裾をはためかせて後ろも見ずにアツという間に消えていく。

深夜。博物館の一室。イシバシ女史の死体だけが、残っている。そして夜明け。同じその部屋に、リンドバーグ警部とヤマグチ主任刑事。

徹夜の捜査虚しく、につつき犯人の足どりはつかめない。

イシバシ女史の死体も今は運び出され、白いチヨークで描かれた人型が、床に横たわっているのみである。

二人の顔に虚脱と疲労の色は濃い。

ヤマグチ 朝ですね…。

リンドバーグ …朝だな。

ヤマグチ リンドバーグ警部。

リンドバーグ んー。

ヤマグチ …また、逃げられちゃいましたね。

リンドバーグ …。

ヤマグチ 何度目ですかね。

リンドバーグ 6度目だ。

ヤマグチ …。

リンドバーグ どうした。

ヤマグチ 5度目じゃないですか？

リンドバーグ 最初のは君が本庁にくる前だ。

ヤマグチ あ。

リンドバーグ いまでもよく覚えてる。場所はカリナエの州立博物館。2月7日の午前

零時かつきりにやられた。

ヤマグチ よく覚えてますね。

リンドバーグ ショックだったからな。本庁あてに予告状が来たときはどこかのイカれた若造のつまらんイタズラだと皆で笑ったもんだ。盗む場所、盗むモノ、日付に時間。追伸の文句に、気取ったサイン…。

ヤマグチ (予告状を出して眺める) やり口は変わってないんですね。

リンドバーグ 予告を信じてる者などひとりもいなかった。目の前でやられたときは膝から力が抜けていくような感じがしたよ。

ヤマグチ あ、私、今そうです。

リンドバーグ それからだ。それから5回。全て予告通りの仕事だ。世間は騒ぐ、新聞は警察の無能をあげつらう。この2年は長かった。

ヤマグチ クロード・ベルナル…か。たいしたヤツですね。

リンドバーグ たいしたヤツだ。昨日まではそう思っていた…。

ヤマグチ …。

リンドバーグ、床の白線をじっとみている。

リンドバーグ ヤマグチ君。

ヤマグチ はあ。

リンドバーグ 旅の支度だ。山を越えるぞ。すぐだ。

ヤマグチ どこかへ行くんですか。

リンドバーグ 会いに行くんだ。

ヤマグチ 誰に？

リンドバーグ 刑事さ。

ヤマグチ 私、刑事ですけど。

リンドバーグ この事件を任せられる刑事だ。

ヤマグチ あ、それなら私じゃ無理です。

リンドバーグ わかつてる。

ヤマグチ でもいいんですか。

リンドバーグ 何がだ。

ヤマグチ つまりその…。

リンドバーグ 君の言いたい事は分かってる。私だって自分の手で挙げたい。だがもうこれ以上ヤツをのさばらせておけるか。ベルナルは初めて人を殺した。これまで一人の人間も傷つけずに仕事をしてきた誉れ高き怪盗ベルナルがだ。どういふことかわかるか。…私のプライドなど取るにたらん問題だ…。いくぞ。

ヤマグチ あの…誰なんです。その刑事って。

リンドバーグ 君も噂に聞いた事があるだろう。検挙率100%、どんな難事件も必ず解決してきた、最強の刑事の噂を。彼女に頼るべき時が来たんだ。

ヤマグチ 彼女？ それってもしかして…。

リンドバーグ ハイジだ。ハイジに会いに行くんだ。

リンドバーグ、ヤマグチ退場。  
暗転。

第1幕 《少女刑事》

山荘。古めかしいががっしりした造りで、30年前なら貴族の別荘かと思わせる雰囲気、一階の広間。  
山荘に近づく男ひとり。お忍びで旅行中のリー・イシバシ教授である。

イシバシ 「ごめんください。」

誰もでてこない。

イシバシ 「ごめんください。どなたか。ごめんください。」

イシバシ、広間に入ってくるが相変わらず誰もでてこない。  
イシバシ、椅子に腰掛ける。  
ウーフニック、バルトアンデルス登場。山荘に入ってくる。

イシバシ …。(妖怪には気をとめない)どなたか。ごめんください。…誰もいないのかな。

妖怪たち、イシバシに興味を持つ。最初は警戒しているが、少しずつちよっかいを出し始める。

イシバシ …。シッ…シッ。

妖怪たち、さっと離れるが、また寄ってくる。

イシバシ すみません。どなたかいらつしやいませんか。予約したのですが…。シッ…

あつちへいきなさい。

ウーフニック ……?

バルトアンデルス …。

ウーフニック

バルトアンデルス …。

何か会話をしているらしい様子だが、人間には全く分からない。

イシバシ わかったわかった。あつちへいきなさい。

ウーフニック

バルトアンデルス …。

ウーフニック …。

イシバシ …。

なんとも言えない間合いがあたりを支配する。

イシバシ …すみません。どなたか…

ウーフニック

バルトアンデルス …。

イシバシ …。

救い難い沈黙。好青年、コレット登場。

コレット こんにちは！

イシバシ あ。よかった。こちらの方ですか。私、こちらに予約しているブリジストンという者…

コレット ……こりやすごい！（大慌てで荷物の中から手帳を取り出し、ページを繰り始める）待てよ待てよ待てよ…。

イシバシ あの…。

コレット あー（見比べる）…違うちがうちがう…。どっかで見たぞどっかで…

イシバシ この方ですか。私、予約したと思うんですが…

コレット あー（見比べる）…これだ。（笑つ）…すごいぞ。ねえこれですよね。（絵をみせる）

イシバシ ああ。そのようですね。

コレット いやあ感激だなあ。やっぱり山の方に来てみてよかった。都会じゃこんな立派な妖怪は滅多に見れませんからね。来た甲斐がありましたよ。

イシバシ よかったですね。……ところであなたもこの山荘に泊まられるんですか。私はさっきから呼んでいるんですが誰もできてくれないんですよ。

コレット いい事を教えましょう。

イシバシ いい事というと。

コレット バルトアンデルス。

イシバシ はあ？

コレット こいつの名前ですよ。

イシバシ はあ。

コレット いいですか。バルトアンデルスというのは「いつでも・他の・何か」という意味なんです。この妖怪は自らの姿形を自由に換えられるんです。

イシバシ はあ。

コレット それからもうひとつ、バルトアンデルスは、例えば椅子やベンチ、鍋や釜のような、生まれつき口がきけないものと話をすることができるんですよ！

イシバシ 鍋や、釜ね。

コレット はい。

イシバシ なるほど。ところで話は変わりますが…話を变えていいですか？

コレット あ。すみません。僕ひとりで興奮しちゃって…。僕はコレットといいます。

イシバシ あ、私、ブリジストンといいます。

コレット どうも、ブリジストンさん。（握手）そうですよね。問題は…

イシバシ そうなんです。

コレット ええ。問題はこいつですよ。…みたこともない種類だ。

ウーフニック ー！

イシバシ そうではなくですね…。私が言っているのはこの山荘の管理人が出てこないという…あ、聞いてない。

コレット、手帳をめくるのに夢中で聞いていない。

サラリーマン風の男、ダンテス登場。椅子にどかりと腰を下ろす。

ダンテス あー、疲れた。おーい客だぞ。とつとと部屋に案内しやがれ。それから飯だ

飯。もう腹減って死にそつだよ俺は。

イシバシ そうです。私の言いたかったこともそれなんです。あなたはいい人だ。

ダンテス ああ？ なんだあんたは。

イシバシ 私もさつきから呼んでいるんだが、誰も出てこないんですよ。  
 ダンテス そりゃあんだ、気合いがたんねえんだ。  
 イシバシ 気合い。というと。

ダンテス いいか、こうだよ。(いきなり奥に向かって怒鳴る)こらあ！ 客だぞ！ 泊  
 まりにきてやったぞ！ さっさと出てきやがれ、馬鹿野郎！

イシバシ …。(座る)

誰も出てこない。

ダンテス 聞こえねえのか。客だっていってんだ、このすつとこどつこいの玉無し野  
 郎！ くやしかったら出てきてみやがれ！…なんだこのバケモンは！ 生意気に  
 人間様の家に入ってくるんじゃないやねえ！

寄ってきたウーフニックを蹴る。

ウーフニック !

コレット ああアッ！ なにするんですか！ あなた！

ダンテス ああ？

コレット 今今何しました。

ダンテス なんだア？

イシバシ コレットさんやめときなさい。相手が悪い。

コレット あんたみたいな人がいるから、妖怪は都会から逃げだす、人間とコミニ  
 ケーションをとろうとしなくなる、そしてますます妖怪と人間の溝は深まってい  
 くんです。

ダンテス あんだあ？ あんなのとコミニケーションしてどーすんだヨ？ え？ なん

かいこと、あんの？

コレット え、それは、たとえば、ええと

ダンテス どうしたホラ、言ってみるよホラ。

イシバシ まあまあ、そう興奮しないで下さい。

ダンテス あんたもこいつらとお友達なのか？

イシバシ …いえ、私は初対面で…

コレット たとえば、そうだ！ いいですか、たとえばこの、バルトアンデルスはね、  
 (手帳を繰る)ホラ、二二二、これですよ、この妖怪は、自らの姿形を自由に変え  
 られるんです！

ダンテス ……。

イシバシ ……。

コレット ……。(得意げな満面の笑み)

ダンテス てめえバカにしてんのか！ (暴れる)

コレット わわ。

イシバシ あぶないあぶない。

ダンテス 化けるからバケモンなんだろうが。こいつが化けてそれでオレたち人間様に  
 何の得があんだっていったよ！

コレット どうしてそういう風に人間中心の考え方しかできないんですか。あなたみた  
 いなそついう考え方が地球全体の共存環境を破壊していくんだ。

ダンテス あーあーあー、いいねえ君たちは。のどかな味出しやがって。人間中心でなにか悪いんだよ。ええ。都会はね、戦場ですよ、戦場。オレ達サラリーマンは食うか食われるかなんだよ。バケモンと仲良くしてる暇なんかねえんだよ。

コレット その差別用語はやめて下さい。彼らはバケモンなんかじゃないんだ。

ダンテス じゃなんだってんだ。

コレット 彼らは、妖怪です。

ダンテス …おんなじじゃねえか！

暴れるダンテス。妖怪は恐れをなして逃げていく。

コレット (戸口に駆け寄って) あ、ちょっと君！ 君たち！ 待ってくれ！ 僕は君

たちの味方だ。決して怪しいものじゃないんだ！ おーい！

ダンテス けッ、てめえが一番あやしいじゃねえか。

イシバシ あのう、私の聞き間違いでなければ、今確かサラリーマンとおっしゃいませ

んでしたか。

ダンテス ああ言ったぜ。なんか文句あるかい？

イシバシ いや別にそういう訳ではなくて。どういったお仕事なのかと思ひまして。

ダンテス セールスですよ。

イシバシ ははあ。どういったものを？

ダンテス、イシバシを呼び寄せて、そっとスーツケースを開けてみせる。

ダンテス これだよこれ。

大量の女性下着。

イシバシ これは…。

ダンテス どうです。これなんかいいでしょ？ お安くしますですよ。

イシバシ いや、私は。

ダンテス さらにこれなんかたまらないでしょ。ん？ どう？

広間の奥より泊まり客らしい男が登場。ダ・シールである。

ダ・シール ずいぶん賑やかですねえ。

イシバシ、声を聞いてホッとしたように振り向く。ダ・シールと目が合う。コレットもダ・シールに気づく。

イシバシ …。

イシバシ、無言で目を反らし再び椅子に座る。

ダンテス やっと出てきたな。飯！ 風呂！ 女！

ダ・シール なにか勘違いをしていますね。私はここに泊まってる客です。管理人じゃ

ない。

ダンテス あそつ。

ダ・シール 皆さんお泊まりですか。お仲間が増えますな。私はダ・シールという者です、よろしく。

ダンテス エドモン・ダンテスってんだ。よろしくな。

イシバシ ブリジストンです。

皆がコレットを見る。コレットはダ・シールをにらみつけている。

コレット ……ダ・シール。思い出した。僕はあなたのこと知ってますよ。

ダンテス なんだ、知り合いか？ またイカれた妖怪マニアじゃないだろうな。

コレット それどころか。敵ですよ。

ダンテス 敵ってなんだよ。

コレット 妖怪たちの天敵です。この男はハンターだ。

ダンテス なんだよ有名人なのかよ。

コレット 有名ですとも。何百何千という罪もない妖怪たちを殺して名をあげてきたんだ。

ダンテス サインくんねえかな。

コレット ダ・シールさん。3年前にあなたがコロンビアの湿原で殺したガルダのことを憶えているでしょう。

ダ・シール 憶えてるよ。コロンビア奥地の遺跡調査に行ったときだ。殺さなきゃこっちが危ないときは殺すしかないさ。あんただってきつとそうするよ。

ダンテス ガルダってなんだよ。

コレット 秃鷹の爪と翼、人間の顔と足を持った古い妖怪です。一日一匹の蛇を食べて何千年も生きるんです。顔は白くて翼は鮮やかな深紅。胴体は金色。人間なんかよりずっと古くて、美しい生き物だった。死者を甦らせる力があると信じられていて、青銅や石で作られたガルダ像が今でも世界のあちこちにあるんです。そもそもガルダという名前は古いインドの教典に記されているように…

ダンテス わかったわかった、もういい。

コレット だけでもう人間は生きているガルダを見ることはできない。最後の一頭が3年前コロンビアで、この男の手で殺されたんです。

一同、ダ・シールを見る。

ダ・シール 本物のガルダを見たことは？

コレット ……ありません。

ダ・シール 私がしとめた奴はてっぺんからつま先まで3メートルはあった。あいつと鉢合わせしたとき、パーティは疲れきって回避する余裕がなかった。

コレット だからといって！

ダ・シール 私がやらなきゃパーティ全員やられてた。都会も戦場かもしれないけどね、ダンテスさん、山だっって一つ間違えば命を落としかねない熾烈な戦場なんですよ。

ダンテス なるほどねえ。いやあいい話だなあ。

コレット はい。(反論の拳手)

イシバシ はい、コレットさん。

コレット 異議あり！

イシバシ どうぞ。

コレット なぜガルダが調査隊を襲ったのか。それは彼らが妖怪たちの縄張りに無法に足を踏み入れたからです。ガルダに限らず妖怪たちは自分たちの領域を守って生きているんだ。それを土足で踏みこむのはいつでも思えば人間の方なんだ！



ダンテス なるほどねえ。

ダ・シール 君の言つとおりだ。人間は身勝手に思い上っている。遺跡調査と称して自分たちの好奇心を満足させるためならどんな危険なところへでも吸い寄せられていく。それが人間の習性つてもんだ。そう思いませんか、ブリジストンさん。

イシバシ え、ああ、まあ。

コレット 開き直りだ！ だから好きだけ妖怪たちを虐殺していいっていつのか！

イシバシ まあまあコレットさん落ちついて。

ダンテス もうどうでもいいや。めしー！ ふろー！ バカヤロククショー！

ラッシャー (声) あ、しばらくくしばらく。

広間の奥より神父風の男登場 J・J・ラッシャー。

ラッシャー お話はすべてつかがいました。どうかみなさん。私の話に耳を傾けて頂きたい。

ダ・シール 私の隣の部屋に滞在されている、ラッシャー神父です。

ラッシャー ラッシャーです。

コレット コレットです。よろしく。

ダンテス エドモン・ダンテス。

イシバシ ブリジストンです。

ラッシャー 人間の本性に関する皆さんの真剣な議論、壁越しにこの耳に熱く伝わってまいりました。その階段の下で皆さんの齒に衣着せぬ熱い語らいにじつと耳をそばだてながらこのラッシャー、身裡の震える想いがいたしました。バイブレーション。そう真実を希求する皆さんの燃えるバイブレーションがこのラッシャーの魂に共鳴し、皆さんとラッシャーは共に神とその創り給いし世界に就いて想いを巡らす喜びに打ち震えたのです。

ダンテス なんなんだこの人。

イシバシ こういう人なんだ、と考えるのが妥当ではないでしょうか。

ラッシャー わたくしが思うに人間の性。そう、すべての問題はそこに発していると言ってもいいでしょう。そこでぜひ皆さんにこのお話を聞いて頂きたい。今日の聖書の箇所は、カムイ伝第3章16節…。汝らのうち罪無き者まず石を擲て…。

滔々とラッシャー神父の説教が始まる。  
議論は泥沼化する一方である。

ダンテス これ、いつまで続くんだよ。

ダ・シール 始まると、長い。

ラッシャー …かつてユダヤの偉大な精神医学者ジークムント・フロイド博士は言いました。人間の全ての行動はセクシャルパワーに支配されている。それを彼は、リ・ビ・ド。そう呼びました。リビド。

歌い踊る神父。

入り口から、老婆とその孫娘らしき二人連れが登場。娘は実はお忍び旅行中のハイジ・コーネル、老婆はその親友のクララの変装姿である。

ハイジ ごめんください。

全員 はい！

ハイジ あのお、マルクス荘というのはこちらでしょうか。

ダンテス 飯！ 風呂！…女！  
 イシバシ ダンテスさん落ちついて。  
 ラッシャー マルクス荘は確かにここですよ。お泊まりですか、美しいご婦人がた  
 ハイジ ええ。

ダ・シール なんだかどんどん人が増えていきますね。  
 コレット ずいぶんはやってるんだな、ここ。  
 クララ (座りつつ) ああすみませんねえ。…ゴホゴホゴホ！  
 イシバシ 大丈夫ですか。これをどうぞ。

ハンカチを差し出す。クララ、鼻をかむ。

イシバシ あ。

ハイジ あ、おばあちゃん！…すみません、洗って返します。  
 イシバシ いいんです。

ラッシャー わたくし、ラッシャーと申します。どうぞよろしく。

ダ・シール ダ・シールです。

ダンテス エドモン・ダンテス。

コレット コレットです。よろしく。

イシバシ ブリジストンです。

ハイジ お部屋ありますでしょうか。祖母と二人なので、二人部屋がいいんですけど。  
 イシバシ それがどうも管理人の方が留守のようでわれわれも困っているんですよ。  
 コレット そうか、そういうえばそういう問題もあつたんですね。

イシバシ もともとそれだけが問題だったんです。

ハイジ そうなんですか。あの、私たち予約してないんですけど、お部屋、空いていそ  
 うですか？

ダ・シール 今ここに泊まっているのは私とラッシャー神父ともう一人女性がいるだけ  
 です。客室はあまっっていると思いますかね。

ダンテス ちよつと待てよ、俺の方が先だぞ。

コレット そんなこと言ったら僕の方が。

ダンテス アニい、生意気にこのバケモンキチガイが！

コレット ああッ。ダブル差別用語！

ラッシャー まあまあ皆さんお静かに、ハハハハハ。

イシバシ あの、もう一人の女性というのは…

音楽が聞こえてくる。広間の奥よりマリー登場。

ダ・シール 噂をすれば、ホラ。

ラッシャー ご紹介しましょう、私の隣室に宿泊されている、吟遊詩人のマリー・ル  
 イーゼ・フォン・フランツさんです。

マリー、一礼する。

コレット …また増えましたね。

マリー マリー・ルイーゼ・フォン・フランツです。

ダンテス エドモン・ダンテス。

コレット コレットです。よろしく。  
イシバシ プリジストンです。

マリー 詩とは何か。人間にとっても身近な文学、それは人間の肉体です。肉体が発する文学、それこそが真実の詩。人と人とは一期一会！ 私は今から皆さんにお会いできた喜びをこの身に託して、皆さんに私の詩を捧げましょう。

ラッシャー マリーさんは肉体派前衛詩人のホープなんです。  
ダンテス まともな奴はいねえのかあ！

イシバシ わたし、大分前からあきらめています。

マリー 作品 1074。題、「出会い、そして触発」。

マリー、ところ狭しと踊り始める。

ラッシャーの聖歌とマリーの踊りで広間は異常な熱気に包まれる。

コレット 何だかすごいことになってきましたね。

ダンテス 狭いんだよ。誰か出てけよ。

イシバシ とにかく管理人を呼びませんか。管理人を呼びましょう。おーい。管理人さん。

老婆、進み出る。

クララ あたしに任せなされ。

イシバシ はあ。

クララ このあたしが管理人の魂をここに呼び寄せて進ぜよう。

ハイジ 祖母はイタコなんです。

ダンテス またおかしなのがきたな。

コレット 管理人は生きてるんじゃないでしょうか。

イシバシ あのお気持ちはありがたいんですが、特に魂だけ呼んで頂かなくても本人が呼べればいいんでして…あ、聞いてない。

すでに老婆はハイテンション状態に入っている。

クララ むん。はらひらひらほー。

イシバシ あのお婆さん。もしもし。

ラッシャー 既にトランス状態に入ったようです。神秘です。セクシャルパワーです！

ダンテス 婆あおセクシャルパワーか。

コレット なんかやだなあ。

クララ むほー。ほほほほおりゃあ。

ラッシャー WOW！ セクシャルパワー！ ハレルヤ！

イシバシ すみませーん。どなたか！

ケンプレン、作物を満載して登場。

ケンプレン あんのお。

全員 はい！

ケンプレン 向こう谷の農家のもんだけども、マルクス荘はここでええんだべか？

ラッシャー 農業です！ アグリカルチャーパワーです！

イシバシ ああまた増えた！

ダンテス 婆あ！ 呼び寄せんのやめろ！（マリーに）踊るな！  
 ケンブレン 一晩泊めてもらいてえだが、案配悪いべか？ おらはケンブレンていうも  
 んで…

ほぼ全員同時に。

ラッシャー ラッシャーです。  
 ダ・シール ダ・シールです。  
 ダンテス エドモン・ダンテス。  
 コレット コレットですよろしく。  
 イシバシ ブリジストンです。

マリーは踊りで挨拶している。

ケンブレン ああ、こりやどうもご丁寧。  
 クララ はあああ、ほりよりよりより！  
 マリー 続いて作品 1075、「恐山に日が暮れて」。  
 ラッシャー この際です。ご一緒に。  
 ケンブレン あん？  
 ラッシャー セクシャルパワーです！  
 ダンテス 責任者でてこいコノヤロー！ でてこねえと火いつけるぞ！

楊振寧、机の下から幽霊のように登場。

楊 …いらつしゃいませ。

全員、ワアツと驚く。

コレット びっくりしたなあもう。  
 ハイジ おばあちゃん、おばあちゃんしっかり。（クララ、驚きのあまり失神状態）  
 ダンテス なにものだ貴様は。

楊 …いらつしゃいませ。

イシバシ もしやあなたは。

楊 ハーポ・マルクス荘へようこそ。  
 ラッシャー ご主人です。セクシャルパワーがご主人を呼んだのです。ハレルヤ！  
 コレット 生き霊じゃないでしょうね。  
 イシバシ 最初からここにいたんですか…。  
 コレット （机の下）入れるようになってる…。

楊 フロントでございます…。

ダンテス 嘘をつけ嘘を。

ハイジ あのう、お部屋ありますでしょうか。二人部屋がいいんですけど。  
 ダンテス ころ、抜けがけすんじゃねえ！

コレット まあまあ、ダンテスさん、ここはレディーファーストということぞ。

楊 …それではどうぞ、こちらへ。

ハイジ すみません…ホラ、おばあちゃん。

楊、ハイジとクララとマリーを奥へつれていく。

ラッシャー さてと、われわれは散歩にでも行きませんか、どうです。  
 ダ・シール ひとまわりしてきますか。  
 マリー お共しましょう。

ラッシャー ではみなさん、また夕食の折に。ご機嫌よう。

ラッシャー、外へ。マリー、ダ・シールも追って退場。  
 楊、戻る。イシバシ、立ち上がる。

ケンブレン あんのお、泊まり賃の替わりにうちでとれた作物もってきたが…これで

何とか一晩泊めてもらえねえだか。

ダンテス 俺の部屋はな、日当たりのいい部屋にしてくれよな。

コレット 僕は、あの、外の森がよく見える部屋がいいんですけど。窓から森の様子を

観察したいんで…

楊 …ではこちらへ。

イシバシ あ、あの、私も…。

ダンテス あーん？ なんだあ？

イシバシ え…ですから私の方が…先…

ダンテス （かぶせて）なーんかモンクあんのかなー？

イシバシ …あ、じゃあ…さっきのピンクを一つ…。

ダンテス いやあ、買ってくれる？ ありがとっ！ それじゃあね、まずこれにサイン

して。そう。そしたらまず商品200組から始めてみようか。（大量の下着を渡

す）ね。すぐだよ200なんて、アッという間だから。奥さんの友達や友達の奥

さん、友達のおさんの友達…。ね。でね、コレなくなったらすぐ、私に連絡して

下さい。あなたの下にたくさんコドモをつくれればそれだけであなたはお金持ち。

ハハハ。じゃ、頑張って！（握手）

イシバシ あ、あの、これはひょっとすると…

戸惑うイシバシを後目に楊、ダンテスとコレットとケンブレンをつれて退場。

イシバシ、再び座り込む。

イシバシ …。

哲学的な表情。

楊、戻ってくる。

イシバシ、立ち上がる。同時に入口よりヤマグチ、リンドバーグが登場。

ヤマグチ ああ、ここだここだ。着きましたよ、警部。

楊 いらっしゃいませ。

リンドバーグ リンドバーグというものだが、部屋はあるかね。二人部屋でいいんだが。

楊 どうぞ、こちらへ。

ヤマグチ なかなかいいところですねえ。少しのんびりしていきませんか。

リンドバーグ 明日の朝一番で発つぞ。

ヤマグチ そんなあ。

楊、二人をつれて退場。イシバシ、みたび座り込む。

表情はあくまで哲学的である。

ウーフニックとバルトアンデルス、登場。

イシバシ、妖怪たちと目が合う。

イシバシ …。

哲学の謎は深い。

ウーフニック

イシバシ …しッ、しッ。

妖怪たち、去る。  
楊、戻ってくる。

イシバシ …。

楊 …。

イシバシ 一応、お尋ねしますが…

楊 はい。

イシバシ 部屋はありますか。

楊 …。(凝固している)

イシバシ …わかりました。どうもお騒がせしました。

楊 …ごさいます。

イシバシ …。

楊 …どつぞこちらへ。

イシバシ、そっと涙を拭って、楊の後について退場。  
ハイジとクララ、奥より登場。

ハイジ だいたいあんたはねえ、悪ノリし過ぎなのよ。

クララ あー。(ボケ婆あの振りをしている)

ハイジ 普通にしてらんないの普通に。

クララ あー？(悲しげ)

ハイジ ボケた振りすんじゃないわよ。

クララ でへへ。

ハイジ 笑ってる場合じゃない。

クララ (突然若くなって)ごめんしやい。

ハイジ 目立たないようにつて言ってるそばから何なのあのほおりやあーっちゅのは。

クララ いやあなんかさ、こついつカツコしてあーゆー喋り方するとき、そついつ気になるね。

ハイジ どんな気よ。

クララ え、いや、シン、シンイン・ヒョウビョウたる、き、気持ちっていつか…

ハイジ なに分かんないことってんのよ。とにかくもつと目立たないようにつて言  
いの。

クララ なによお。あんたのためにやってんじゃないの。あんたがこつやって人目を忍  
んでさ、名前を出さずに旅行したいっていつから、あたしだつてつき合つてこん  
な屈辱的な格好してうるうるしてんじゃないよ。

ハイジ 屈辱的つて、あんた自分で変装するなら婆さんがいいつて言つてそれ自分で  
買つてきたんじゃないの！

クララ もう飽きた、明日から威勢のいい蕎麦屋の看板娘がいい。

ハイジ 不自然でしょ！ 何で婆さんが一夜明けて蕎麦屋の娘なんのよ。だいたい言  
わしてもらえばね、あんたの趣味は異常よ。

クララ えー、もうやだよ。蕎麦屋がいいー！  
ハイジ わがままいってんじゃないわよ！

クララ やだよー！

ハイジ クララ！

クララ ソバー！

ハイジ うっさい！

ラッシャー、マリー、戻ってくる。

ラッシャー いやあこのあたりの空気は実に新鮮…おやおやおばあちゃん、どうしました。

クララ (一瞬にして婆あに戻る) あー、お帰りなさいまし。ゴホゴホゴホ。(せぎ込む)

ラッシャー (介抱する) 大丈夫ですか、おばあちゃん、長旅でお疲れなんでしょう。

クララ ああ、こりゃあご親切に…

ハイジ すみません神父さま。ソバは…

ラッシャー はあ？

ハイジ いや、祖母は少し体が弱いもので…

ラッシャー ああお孫さんも疲れていらっしゃる。この向こうの離れに浴場があります。お婆さん連れていってらっしゃい。疲れがとれるから。

ハイジ はい、そのつもりです…

クララ、背を向けて笑いをこらえている。

マリー それでは私が年老いた者に対するわたりの詩を。 作品 2136。

ハイジ えッ、ずいぶんさつきから数いつてません？

ラッシャー あ、それではわたくしお先に。

ハイジ あ、神父さん！

ラッシャー (囁く) 始まるよ長いですよ。

ラッシャー そそくさと退場。マリー、踊りの準備をしている。

マリー それでは。

ハイジ あ、あの、ええと、祖母はこれからお風呂に行くので、わたりの歌はまた夕食の後なんかといいつつ…

マリー …。

ハイジ あの、マリーさん？ お気に障りました？ あ…

マリー 作品 2137。「失意、そして旅立ち」。

マリー、踊りながら退場。

ハイジ、へたりこむ。クララ、笑いこぼる。

ハイジ なに笑ってやんでい…

クララ …そば。(再び笑いこぼる)

ハイジ …。(憤然と戸口へ消える)

クララ あ、ちょっと、待ちなさいよ。ハイジ！

ハイジ (戻ってきて) その名前呼ぶなって言ったでしょ！ 誰が聞いてるか分かんないんだから！ (戸口へ消える)

クララ (まだ笑っている) ちょっと待ってよ。ねえ!…ソバちゃん!  
ハイジ (声だけ) うっさい!

クララ、追って退場。

リンドバーク登場。

ヤマグチ、少し遅れて登場。

ヤマグチ 警部。風呂いきませんか。

リンドバーク ヤマグチ君。

ヤマグチ はい?

リンドバーク 「警部」はよしなさい。そうでなくても他人から煙たがられるわれわれの職業を宣伝して歩くこたあない。

ヤマグチ ……リンドバーク。

リンドバーク ……。

ヤマグチ さん。…あ、なんか心臓止まりそうです。

リンドバーク おおげさだな。

奥からコレット、双眼鏡とノートを手に、あたふたと登場。

コレット (窓から森の方へ向かって) おーい、待ってくれー! (双眼鏡を目に当てる。ノートを確認する) まちがないぞ、こいつだ、キルケニーだ。(窓の外へ) おーい!…(リンドバークとヤマグチに気づいて) あ、どうも。

戸口から飛び出していくコレット。

ヤマグチ せわしない男ですね。見たところ学生風ですけど。

リンドバーク 妖怪マニアってとこかな。

ヤマグチ このあたりの森は特に多いんだそうですよ。それにしても警部…リンドバーク…さん。あ、なに言おうとしたか忘れた。

リンドバーク 慣れたまえ。

ヤマグチ 努力してみます。えーと、そつだ。例の少女刑事なんですけど、わたし、噂でしか聞いたことないんですが、そんなに優秀な刑事なんですか。

リンドバーク 彼女が手がけた事件で解決しなかった事件はない。優秀というより、天才だよ。

ヤマグチ でもまだ若いんでしょう?

リンドバーク 彼女は17歳だ。

ヤマグチ そんな歳で、噂に登るほどたくさん事件を?

リンドバーク 世界中の警察から頼みにくるのさ。迷宮入り寸前の手に負えない難事件の調書を抱えてな。

ヤマグチ それって、管轄外の事件でしょう? アルバイトってことですかね。

リンドバーク 無料奉仕だ。彼女自身も事件の依頼に嫌気がさして、よっほどのこたがないと引き受けないそつだ。

ヤマグチ 引き受けてくれますかね。

リンドバーク 拝み倒すさ。なんとしてもな。

ハイジ、クララ戸口より登場。



クララ あゝ、いゝお湯だったねえ。  
 ハイジ そうねえ。(リンドバークたちに会釈して) さ、おばあちゃん、もうすぐお夕飯よ。お部屋に戻って待ってましょ。  
 クララ (退場しつつ) あゝ晩ご飯はなんだろうねえ。  
 ハイジ なんてしょうねえ、楽しみね。  
 クララ あたしゃソバがいいねえ。  
 ハイジ …。

ハイジ、クララ奥へ退場。

ヤマグチ ああ、もうそんな時間か。日暮れが早いですね。

リンドバーク そうだな。…明日は山越えだ。夕方には街に入れるだろう。ハイジはすぐそこだ。

ヤマグチ それにしても警部はずいぶんハイジ刑事についてくわしいんですね。面識はあるんですか。

リンドバーク いや、私は顔は知らん。…ひと風呂浴びるか。

ヤマグチ はい。

リンドバーク、ヤマグチ戸口へ去る。

イシバシ、奥より登場。

マリイ、踊りながら奥より登場。

イシバシ、マリイの肉體詩をながめている。  
 踊りが終わって、イシバシ、控えめな拍手。

マリイ お久しぶり。元気でしたか？

イシバシ (肯首して) 君も相変わらず元気そうですね。あ、これ、君に。

イシバシ、ストックキングの包みを渡す。

マリイ ありがと。ずいぶんと賑やかなところね。

イシバシ 面目ない。僕もこんなに泊まり客がいるなんて思ってなくて。君と、人目を気にせず二人でのんびりできると思っていたんだが。

マリイ いいじゃありませんの。皆さん明日お発ちになる方ばかりよ。明日からは人目をばばからずと思う存分、仲良くできますわ。

イシバシ ところがそうとばかりもいかないんだ。具合の悪い人間に会ってしまった。マリイ まあ、どなたに？

イシバシ 仕事上の仲間なんだが、あまりたちのよくない相手だね。弱みを握られるとまずいんだ。僕が偽名を使ってここに泊まっていることはもう知らてしまったが、せめて君とのことは隠しておきたくて…さっきは他人行儀な素振りをしてすまなかった。

マリイ まあ、あなた、気になさらないで。わたしとてもスリリングな感じがして、それであなたにインスピレーションが湧いてきたんですもの。でも、どのかたなのか教えて頂かないと。

マリイ、喋りながらイシバシに接近していく。

イシバシ ホラ、君の部屋の隣の…。

奥よりケンブレン、ダンテス登場。

ダンテス へえ、するとあんた都に出稼ぎにいくってわけかい。

とっさに踊ってごまかすマリィ。

ケンブレン そうなんだ。なんせ今年は天候が不順で収穫が思うようにいかなかっただよ。

ダンテス 大変なんだねえ、お百姓さんも。

ケンブレン 畑はオラたちの戦場だ。

踊りながら外へ出ていくマリィ。

ダンテス (イシバシに) おう。どうだい、売れてるかい。

イシバシ あ、いや、ぼちぼち…。

ダ・シール、外より戻る。

ケンブレン ああ、お帰りなせえ。

ダ・シール そろそろ夕食でしょう。今日は賑やかな晩餐になりそうだ。…では。

ダ・シール、奥へと退場。  
リンドバーク、ヤマグチ外より戻る。

ヤマグチ (広間の人々に) あ、どうも。いやあ、いい風呂だったな、ねえ、リンちゃん。リンドバーク…そうだなあ、ヤマちゃん。

ヤマグチ それにしてもリンちゃん胸毛すこいね、初めて見たけど。

リンドバーク…。

ヤマグチ (小声で) どうですか、だいぶ慣れたでしょ。

リンドバーク (小声で) 慣れすぎだ。

ダンテス あんたがたも今日泊まりかい？

ヤマグチ ええ。

リンドバーク リンドバークというものです。よろしく。

コレット、マリィ外より戻る。

マリィ まあまあ、若いってことはいいことよね。

コレット だから誤解ですってば。僕はただ森の妖怪たちを観察しようとしただけなんです。

マリィ 見たいなら見たいって正直に言いなさいよ。黙って覗くっていつのはね、あなた、犯罪よ犯罪。

コレット だから違うんだってば！

ダンテス なに騒いでんだよ？

マリィ いいえ、実はこの方がね、お風呂をお覗き…

イシバシ えッ。

コレット だーッ！ 違う！ 違います。

ヤマグチ 覗き？

マリィ まあ、こんな物まで用意してそれはそれは念入りに…

コレット いやこれは妖怪を見るための…

マリィ ま、あなたわたしを妖怪扱いするの？ 怒るわよ。  
 ダンテス そうだよそりゃいけねえよ。怒ると踊るよ。  
 コレット だから違うっていつてるでしょ！

楊 奥より登場している。

楊 ……そろそろお食事です。  
 リンドバーグ まあまあ、落ちついて。…お嬢さん、実際にこの男が風呂を覗いているところをご覧になったんですか。

マリィ いいえ、それは…

リンドバーグ 見てはいない？

マリィ お風呂の近くに行ったら、双眼鏡を持ったこの人がウロウロしてたものですか…

コレット だからそれはキルケニーがそっちの方に逃げたから…

マリィ キルケニーって？

ダンテス 聞くな！ ものすごく長くなるから。

楊 ……そろそろお食事です。

ケンプレン ほお、キルケニーが出ただか。ここいらじゃ珍しいだぞ。

リンドバーグ わたしもこの男がキルケニーだと叫んで飛び出して行くのを見てます。

まあ、覗いている現場を見たわけじゃないんだ。…ここは疑わしきは罰せずということとで穩便に済ませようじゃありませんか。

コレット この男この男って偉そうに、なんなんですかあなたは。

ヤマグチ リンちゃんはいや、リンドバーグさんは、その、越後の縮緬問屋です。

コレット なんじゃそりゃ。

楊 ……そろそろお食事です。

リンドバーグ とにかくこうやって一つの宿に行き逢った同士、角をたてずに過ごそうじゃありませんか。

ダンテス いいことゆうねえ。

イシバシ けだし名言と言っべきでしょうか。

ケンプレン だどもキルケニーは人のいるところには出てこねえハズだが…

マリィ 口実なんでしょ、ホントは。

コレット それがいたんですよ！

マリィ またまた。

コレット ほんとだつてば！

楊 お食事です！

全員 ハイ！

楊 ……どうぞ食堂の方へ。

全員、楊の後に於いて、順に奥へ消えていく。

ダンテス いよいよ飯だ飯。

イシバシ 長い道のりでしたね。

マリィ ま、今回は見逃してあげましょうか。

コレット まだ言ってる、誤解ですってば。

ヤマグチ リンちゃんさすがに仕切りますね。餅は餅屋だなあ。

リンドバーク 君も餅屋だろうが、ヤマちゃん。  
ケンプレン むっ…。キルケニーが出るとは…。なんか不吉な事がおこらなやあいいが…。

全員、退場。

時が移り、夕闇が迫る。

鼻のような鳥の鳴き声が遠くに聞こえる。

窓の外の森は暗く沈んで行く。

ハイジ、クララ登場

クララ あああああ…く、苦しい。

ハイジ 食べ過ぎよ、あんた。

クララ あ、どっこらしよ、と。(座る)

ハイジ なりきってるわね、ホントに…。

クララ 成せば成る、成さねば成らぬ、何事も…。

ハイジ あんた、ブリジストンさんのハンカチ洗ったの？

クララ ああ、これ(洗ったハンカチを出す)。

ハイジ ちゃんと乾かして返しなさいよ。

クララ あい。

クララ、窓枠にハンカチを掛けて干す。

ハイジ、窓の外をながめている。

遠くで鼻が鳴く。

クララ ねえ、ハイジ。

ハイジ …。(睨む) 何よ。

クララ (睨まれて) あたしやいつも思うんだけどねえ、あんたはどうしてそうやって自分の名前を隠したかったり、刑事なんてやめたいとか、そんなことばかり言うのかねえ…。

ハイジ …。

クララ あんたみたいに、人から頼られて、いろんなところからあんたを頼って人が訪ねてくるなんて、すごいことじゃないかね。あたしやねえ、なんの取り柄もない普通の女の子だから、あんた みたいに特別な力があつたりしたらどんなにいいだろうって思うよ。

ハイジ … 普通の女の子。誰が？

クララ あたしやあ、普通さ。平凡だよ、あたしなんか。だからあんたみたいに天才刑事なんて呼ばれて、世界中の警察に名前が知られるって、どんな感じがするものなのかって、あこがれてしまつよ。

ハイジ そうなってみたい？

クララ ああ、なってみたいねえ。

ハイジ …。

ハイジ、何かを言いかけるが、楊とコレットが奥より登場する。

楊 … お客さん。お客さん。

コレット 大丈夫ですよ。いいですか、妖怪というのはみんな、本来おとなしくて素直な存在なんです。こっちが危害を加えなきゃ何もしいんです。

楊 あれらが何を考えているかは誰にもわからんです。悪い事はいわないからやめておきなさい。夜、この森に出てはいけませんのです。

コレット それはね、迷信ですよ。

ダンテス、奥より登場。

ダンテス お、こんなところにいやがったな。ご主人！ 酒だ酒。…あ、おまえ、またのぞきか？

コレット 違いますってば。

ダンテス 来い！ 飲むぞー！（コレットを引っ張ってゆく）

コレット あ、ちよつと…なにするんですか。

ダンテス 恋に、あ揺れエる、ッと…。

コレット、ダンテス奥へ退場。

楊 （ハイジたちに）…おやすみなさいまし。

楊、奥へ退場。

クララ （若くなって）ねえ、ずっと思ってたんだけどさ…。

ハイジ …。

クララ あの人、コレットっていったかしら…。

ハイジ クララ。あんた、また？

クララ またってなによ。

ハイジ あんたその癖なんとかしなさいよ。

クララ まだ何にも言っていないじゃない。

ハイジ あんたの顔見てりゃわかるわよ。タイプだって言うんでしょ。

クララ まーあ、さすがは名探偵ね。

ハイジ ちよつとやめてよ。あんたがその癖だとゼツタイ、ロクなことになんないんだから。

クララ でもさ、なんか今度は特別なのよ。こう、赤い糸のようなものが見える気がする…。

ハイジ いつもよ、いつもあんたはそういうの。

クララ なんでそんなに冷たいこと言っかな。

ハイジ あんた全身赤い糸でぐるぐる巻きじゃないの。

クララ えーえー。あんたみたいに一途じゃありませんから。（婆あになって）ああ、つまらないつまらない。

ハイジ あたしがなんだっていうのよ。

クララ いとしのベルナル様は今いずこ…ってか？

ハイジ ちよつと、クララ！

クララ あ、本気で怒った。

クララ、さっさと奥へ退場。

ハイジ …そんなんじゃないわ…。私は刑事。あの方は泥棒。私がたった一度、逮捕できなかつた泥棒…。

ハイジ、奥へ退場。  
 リンドバーク奥より登場。  
 窓から外の闇を眺めている。  
 ヤマグチ、奥より登場。

ヤマグチ ああ、いたいた。どうしたんです。

リンドバーク 二階はうるさくてかなわん。

ヤマグチ 宴会ですかね。

リンドバーク ああ。

ヤマグチ 何を見てるんです？

リンドバーク ……暗い森だな。

ヤマグチ ええ。

リンドバーク 昔、俺もこんな森のあるところで育ったんだ。父親によく言われたもん  
 だ。夜は森に入るな、はいると妖怪に言葉をとられるぞってな。

ヤマグチ 言葉をとられる？

リンドバーク 妖怪の言葉を人間は理解できない。学者たちがどんなに研究しても全く  
 理解不能だった。妖怪の方もそれは同じで、やつらは人間の言葉を欲しがって  
 るというのさ。

ヤマグチ はあ…警部の口からそんな話を聞くと、なんだか…

リンドバーク 妙かね。

ヤマグチ 世界観が崩壊しそうです。

リンドバーク 親父は妖怪の魔力や神秘を頑固に信じていたからな。…さ、寝ようや。

明日の朝、無事に出発できることを祈ってな。

ヤマグチ 無事に…？ どういう意味ですか。

リンドバーク どうもな、いやな予感がするんだ。なにかが起こりそうな…。ま、思い  
 過ごしたと思うが。いっつ。

ヤマグチ はい。

リンドバーク、ヤマグチ奥へ退場。

寝静まった山荘。

妖怪たちが集まり始める。

キルケニー。

ウーフニツク。

バルトアンデルス。

3匹は広間に入り込んで、ケンカしたり、話し合ったりしながら何かを捜している  
 様子。

やがて3匹は人の気配に気づいたのか、窓の外をうかがう素振り。

妖怪たちの注視の中、窓枠の下から手が伸び、イシバシのハンカチを奪って引っ込  
 む。

戸口からダ・シール登場

妖怪たち遠まきにして見守る。

ダ・シール、妖怪たちを一瞥し、人待ち顔で立っている。

しばし、緊張の間。

何かが起こりそうな空気。

やがて聞こえる足音。床のきしむ音。

闇の奥をうかがうダ・シール。

足音がやむ。

床に影だけが這う。

逃げ出す妖怪たち。

極限まで高まる緊張。

暗転。

朝の明かりが極くうつすらと広間を照らし始める。  
テールプルの周りを取り囲んだ妖怪たちの背が見える。  
楊、奥より登場。

楊 …… シッ、シッ。

妖怪たち、戸口より逃げていく。  
テールプルの上には仰向けになった人間の体が見える。  
首にはピンクのストッキングが巻きついている。  
顔色は紙のように白い。  
ダ・シールである。

楊 ……

不思議そうにそれを見ているが、やがてストンと腰を抜かす。  
ダンテス、登場。

ダンテス あ、イロハのイの字はどう書くの〜と…。お、旦那さん早いね。

楊 し、し、し…

ダンテス し、し、し？

楊 し、し、し…

ダンテス し、し、詩とはなにか。それは人間の肉体です、ってか？

楊 し、し、し…(テールプルの方を指す)

ダンテス んー？ おお、人間の、

楊 し、し

ダンテス 肉体だ、確かに。…これがつまりし、し、し…

楊 し、し、し、死んでるーッ！

ダンテス あれーッ！

飛び出してくる泊まり客の人々。

ラッシュヤー、イシバシ、コレット、マリー、ハイジ、クララ、ケンプレン。  
大騒ぎになる広間。

リンドバーク、ヤマグチ。

ヤマグチ (死体をあらためて、リンドバークに耳打ち) 警部、殺しです…。

リンドバーク (軽く頷いて) 皆さん、お静かに。落ちついて下さい。われわれは警察  
です。

リンドバーク、手帳をかざす。  
一同静まる。

リンドバーク これから都に連絡をとります。都から応援が来るまで約3日かかりま  
す。その間、皆さんはこの山荘を出てはいけません。いいですね。…ヤマグチ君。  
ヤマグチ はい。えー、みなさん一旦それぞれの部屋に戻って下さい。後ほど一人ずつ  
お呼びすると思いますが、それまでは部屋を出ないように。いいですね。

一同、奥へ退場。

リンドバーク 2階から外への出入りは？

ヤマグチ この広間を通らないと出来ません。2階には、使われていない非常階段があ  
りますが、扉には鍵がかかっていますから。…警部、ホシは間違いなく泊まり客の  
中に…。

リンドバーク そうだ。あの中の一人だ。…こんなところで3日も足止めとはな。とんだ災難だ…。

暗転

明かりがつく。死体は片づけられている。

リンドバーク、ヤマグチの取調べを受けている楊振寧。

(無音)

やがて取調べが終わった様子で、楊は何度も頭を下げて奥へ退場

リンドバーク …シロだな。

ヤマグチ ええ、動機がありませんね。…一息入れますか。

リンドバーク ま、本当のところはウラをとらなきゃわからん…。われわれにできるの

は最低限の事情聴取と足止めだけだ。まったくこの忙しい時に。

ヤマグチ 今までのところ分かったことは、(メモを見ながら)ええ、被害者、アルフォンス・ダ・シール。発掘調査の専門家。女性用靴下による絞殺死体で発見。第一発見者、山荘管理人、楊振寧。この山荘の管理人になって8年。被害者とは面識なし。泊まり客その1、ラッシャー神父。布教活動が目的で旅行中。被害者とはこの山荘で知り合うまで面識なし。その2、マリー・ルイーゼ・フォン・フランツ。詩人。旅行の目的は観光。被害者との面識なし。その3。ブリジストン。高校教師。同じく観光。面識なし。

リンドバーク あれは臭いな。態度が妙におびえた感じだ。

ヤマグチ その4。コレット。大学生。目的は妖怪の観察。被害者との面識なし。ただ名前は知っていたようで、これもマークですね。被害者と派手に口論していたようです。

リンドバーク その5。ケンプレン。農夫。目的は出稼ぎ。面識なし。

ヤマグチ その6。エドモン・ダンテス。セールスマン。ミンシンの訪問販売。

リンドバーク ありや嘘だな。

ヤマグチ 私もそう思います。なんか隠してますね。

リンドバーク コレット、ブリジストン、それからダンテス…か。最後に被害者を見たのは？

ヤマグチ ラッシャー神父ですね。食事の後、神父とコレット、それにケンプレンは、ダンテスの部屋で酒を飲んでた。酒がなくなつてまずコレットが部屋に帰り、次にケンプレン、最後にラッシャー神父がダンテスの部屋を出た。その時、神父は廊下でダ・シールとすれ違つたと言っています。

リンドバーク ふん。それが本当ならその時はまだ生きてたわけだ。残っているのは？  
ヤマグチ 女性の二人連れですね。二人部屋なのはわれわれと彼女達だけです。…二人とも呼んじまっていますか。

リンドバーク …片付けちまおう。

ヤマグチ、奥へ引っ込む。

ハイジ登場。ヤマグチは戻ってくる。

リンドバーク どうです夕べは眠れましたか。

ハイジ はい。

リンドバーク それはよかった。

ヤマグチ お婆さんはどうしました？



クララ、捻り鉢巻で奥より登場。

クララ へ、らっしやい！ お客さん何にしやしよ！

リンドバーク ……

ヤマグチ ……

ハイジ ……

クララ 何にしやしよッ！

ヤマグチ はあ？

リンドバーク 君はなんだ？

クララ 威勢のいい蕎麦屋です。

リンドバーク ……

ヤマグチ ……

ハイジ ……

クララ …… すいません。嘘です。

ヤマグチ …… 何が何だかわからん。

リンドバーク (ヤマグチに) 落ちつけ。(ハイジに) お嬢さん、説明して頂けますか。

ハイジ …… とんだ災難だわ、まったく。

クララ ホントホント。

ハイジ あんたは黙ってなさい。

クララ おー怖わ。

リンドバーク お嬢さん、ピンこないのも無理はないと思うが、これはわっきとした殺人事件の捜査なんですよ。小説の中の出来事じゃあない。現実に人が殺されたんです。まじめに答えてもらわないといけません。

クララ ホラ、まじめにね。

ハイジ …… (ため息)

リンドバーク まずお名前からうかがいましょう。

ハイジ この子はクララ。クララ・レビンソン。

クララ よるしく。(ウラ声)

ヤマグチ (メモをとりながら) レ・ビ・ン・ソ・ン、と。

リンドバーク お歳は？ 失礼ですが。

クララ 17歳でええす。

ヤマグチ セブンティーン…と。

リンドバーク クララ…ね。君は？

クララ 君は？

ハイジ ハイジ・コーネル。

リンドバーク ふむ。ハイジ…。ハイジ？

ヤマグチ ハ・イ・ジ…。ハイジ？

リンドバーク ヤマグチ なにッ！

ハイジ …… 17歳。

ヤマグチ セブンティーン…と。

クララ、愉快そうに笑いを噛み殺している。

ハイジ、撫然たる面持ち。

リンドバーク、ヤマグチ顔を見合わせている。

リンドバーグ エー、念のためお伺いするが…、ご職業は？  
ハイジ (手帳をかざす)…「ご同業。」

ヤマグチ 警察…と。

リンドバーグ ヤマグチ君、メモはいい。あれを。

ヤマグチ はい！

ヤマグチ、バッグより分厚い資料を出す。

リンドバーグ (資料を受取り) これは4日前に私の管轄で起きた、重要文化財窃盗事件の資料です。ハイジ刑事、われわれはあなたに会いに行くところだったんです。どうかご助力を賜りたい。申し遅れたが私はリンドバーグ警部。こちらはヤマグチ主任刑事。

ハイジ お名前は聞いています。帝都一の名警部だって。でもわたしもう、事件を引き受けるのはやめたんです。

リンドバーグ そこをなんとか。

ハイジ だって、この事件だってどうするんですか。

リンドバーグ 3日待てば応援が来ます。なんだったらこのヤマグチ刑事にこの場合は任せて、あなたには一足先に都にご同行願ってもいい。

ハイジ : ホントについてないわ。こんな事件さえ起こんなきゃスレ違いだったのに…

クララ もう観念して引き受けてあげなさいよ。

リンドバーグ どうか一つ。

ハイジ 申し訳ないんですけど、お断りします。

クララ あんたも強情ねえ。

ラッシャー、奥よりそつと登場。

ラッシャー ゴホン！…ああ、お取り込み中でしたかな。

ヤマグチ 困りますよ、神父。まだ終わってないんですから。

ラッシャー どうも失礼。実は一刻も早くお知らせしたい事がありました…

リンドバーグ 何か思いだした事でも？

ラッシャー はい。

ヤマグチ どんな事ですか？

ラッシャー 実は私、犯人を知っているかも知れないんです。

ヤマグチ 何ですって、どういう事ですか。

ラッシャー 喋るべきか、はたまた口を噤んでいるべきか。私の一言で一人が罪に問われる。それが天の意志に叶うことかどうか、この神ならぬ身にどうして計り知れましようや…私は悩み苦しみました。

リンドバーグ 一体何を見たんですか。

ラッシャー 実は…。

ヤマグチ …。(メモを構えて待つ)

ラッシャー …やっぱりやめときましよう。

ヤマグチ あら。

リンドバーグ 神父さん、事は殺人事件ですぞ。言って下さい。

ラッシャー ああ神よ、このラッシャーに勇気を与えたまえ！

ヤマグチ いいからはよ言え。

ラッシャー 昨夜、私、ダンテスさんの部屋で飲酒いたしました。  
 ヤマグチ それはさっき聞きましたよ。コレット君とケンブレンさんもいたんでしたね。  
 ラッシャー そうです。やがて夜も更け、お酒も尽き、みなそれぞれの部屋に戻って行  
 きました。

ヤマグチ そしてあなたはダ・シールとすれ違った、そうですね。  
 ラッシャー その後です。実は私、もう一度ダンテスさんの部屋に戻ったんです。  
 ヤマグチ 戻った？ どうしてです。

ラッシャー 彼の部屋に聖書を忘れまして…  
 ヤマグチ あんたホントに聖職者ですか。酒は飲むわ聖書は忘れるわ…  
 リンドバーグ まあまあいい。で、戻ったら…

ラッシャー ダンテスさんの姿は見えませんか。そしてベッドの上にあの人のスニーカー  
 スが半開きになって投げ出してあったのです。…そのスニーカーの中には…  
 ヤマグチ 中には？

ラッシャー ピンクのスッキングがドツッチャリ…  
 ヤマグチ …。

リンドバーグ、ヤマグチ顔を見合わせる。

ヤマグチ 凶器のスッキングと同じ物ですか？  
 ラッシャー 今にして思えば…

リンドバーグ それからあなたはどうしました？

ラッシャー 私、ダンテスさんがトイレにでも入っているものと思い、彼の名を何度か  
 呼びました。その時…

ヤマグチ その時。

ラッシャー 窓の外で人の影が動くのが見えたんです。

リンドバーグ 人影…

ラッシャー 私は息を殺してカーテン越しに動くその影を見守っております。やがて  
 影はすうつと通り過ぎるように消えてゆき、私はなにか恐ろしいものを見たよう  
 な気がして、自分の部屋へ戻ったのでした…。

クララ (ハイジに小声で) ねえねえ、なんか怪談じみてきたわね。

ハイジ いいからあんたは黙ってなさい。

リンドバーグ ラッシャー神父。お話は分かりました。どうぞ部屋お戻り下さい。  
 ラッシャー では、皆様に神の御加護があらんことを。

ラッシャー、奥へ退場。

ヤマグチ 警部、どうします。

リンドバーグ …ダンテスを呼んでくれ。

ヤマグチ はい。

ヤマグチ、奥へ退場。

リンドバーグ どう思いますか、ハイジ刑事。

ハイジ どうって…何がですか。

リンドバーグ ダンテスがやったと思いますか。

ハイジ さあ、あたしにはちよつと…

リンドバーク もう見当はついていないんじゃないですか？  
ハイジ まさか。いくら何でも、神様じゃないんですから。…ま、お手並み拝見します。

ダンテス、ヤマグチ奥より登場。

リンドバーク ダンテスさん、困りますなあ。隠しだてされると為になりませんよ。  
ダンテス ちょっと待った。俺じゃないんだ。俺はやってない。  
リンドバーク あんたがやったと決めつけてるわけじゃない。ただ正直に言ってもらわないとね。あんたの部屋で、殺人に使われたストッキングを見たと言ってる人がいるんだがねえ。

ダンテス …。

リンドバーク ダンテスさん。

ダンテス ありゃあ、商売道具なんだ。…でも俺はやってないよ。

ヤマグチ ラッシャー神父は、昨晚あなたの部屋に戻った時、あなたの姿が見えなかったと言ってるんですがね。

ダンテス 3人が帰ったあと、トイレに入ったんだ。そうしたら部屋のほうから俺の名前を呼ぶ声が聞こえた。俺は飲み過ぎでへたばってすぐに出て行けなかったんだ。

リンドバーク それで。

ダンテス やつとトイレから出ていくと部屋には誰もいない。それで俺はベッドにぶつたおれて朝まで目が覚めなかったんだ。

リンドバーク その時、窓のそとに誰かがいたような気配は？

ダンテス いや…。気がつかなかったよ。

リンドバーク つまりアリバイは何もないわけだ。

ダンテス 俺じゃないって。今朝の騒ぎの後、品物の数を数えたんだ。俺が寝てる間に誰か盗んだんじゃないかと思って…一枚だってなくなってやしなかった。

ヤマグチ なくなってるかい？ 確かですか？

ダンテス 神に誓って嘘じゃねえ。それに、あれを持ってるのは俺だけじゃない。

リンドバーク というところ？

ダンテス ブリジストンに、200組売ったんだよ。

リンドバーク …。

ダンテス ホント、信じて。

リンドバーク いいでしょう。とにかく部屋に戻っててください。

ダンテス …俺じゃないよ。…ホントだからね。

ダンテス、奥へ退場。

ヤマグチ …あいつだったらただの間抜けですね。

リンドバーク ま、シロだな。殺しのやれるようなタマじゃない…。

ヤマグチ ブリジストン呼びますか。

リンドバーク こっちから出向こう。部屋も見たい。

ヤマグチ はい。

リンドバーク ちょっと失礼します。この調書は置いて行きますから、どっか目だけでも通していただきたい。

ハイジ あ、でも…

リンドバーク どうやらこの事件は、あなたの手を借りずともすぐカタがつきそうだ  
…。

リンドバーク、ヤマグチ、奥へ退場。

クララ ふうん…。で、どうなのよ。

ハイジ なにがよ。

クララ 犯人よ犯人。分かった？

ハイジ あのねえ…あたしゃ超能力者じゃないんですぜ。

クララ だってえ、考えてみればあたし、あんたが仕事してるとこ見たことないんだ  
よね。

ハイジ そりゃそうでしょうよ。

クララ ねえねえ。

ハイジ なによ。

クララ この事件解決してみせてよ。

ハイジ あたしゃ非番なの。休暇なの。

クララ いいじゃないの、どうせもうバレちゃったんだから。

ハイジ どっちの事件よ。(調書)これ？ それとも今朝の？

クララ とりあえず今朝の。

ハイジ …。

クララ じゃ、これはあ？ (調書)

ハイジ 断ったでしょ。

クララ でもさ、あきらめてないみたいよ、あの人たち。

ハイジ やれやれ…。

クララ、パラパラと調書を見ている。

クララ ねえねえねえ！ ちょっと！

ハイジ なあによ。

クララ これこれ！ (調書のページを指す)

ハイジ あんた勝手に見ないのよ。

クララ これ見てよこれ…

ハイジ 予告状の写し…？

クララ …親愛なる警視庁の皆様へ。貴下ますますご清栄の事、お慶び申し上げます。  
さてこの度は、貴庁管轄下に当たるマックス・シュール記念博物館所蔵の数々の  
遺跡発掘品の中より、かねてより話題の石塔片、通称シャロン・ストーンを頂戴  
いたします。今宵より丁度1週間の後、深夜3時きっかりに頂上に上がります。  
それでは…追伸。当方書状のお約束がえし事とて無く、如何なる警備も御無  
用につき、悪しからず。あなたの、C・B。

ハイジ …。

クララ ハイジ、これ、C・Bって…もしかして。

ハイジ ベルナル…。

クララ そうよ！ ねえハイジ！ これチャンスじゃない！ あんたのベルナルがま  
た現れたのよ。

ハイジ …やめてよ。もう、関わりたくないの…。

クララ なに言ってるのよ、あんたは。好きなんでしょ。だったら引き受けなさいよこの事件。

ハイジ あのねえ、あの人は泥棒で、あたしは刑事よ。

クララ だから？

ハイジ だから…だからさ…

クララ うんうん、だから？

ハイジ いいでしょうどうでも！

ヤマグチ (声) ええ、195、196…

慌てて調書を読む振りをするハイジ。

ヤマグチ、奥よりストックキングの山を抱えて登場。  
後についてイシバシ、リンドバーグ登場。

ヤマグチ (ストックキングを数えている) 197、198、199。…やっぱり一枚足りませんね。

リンドバーグ (意味ありげにイシバシを見て) さて…。ま、お掛けになりませんか、ブリジストンさん。

イシバシ …。(座る)

リンドバーグ ダンテスさんの話によれば、あなたは200組のストックキングを持っているはずだ。ところがここには199組しかない。

イシバシ それは…。(黙り込む)

リンドバーグ ストックキングは一人では歩かない。さて誰がはいているんでしょうなあ。

イシバシ …。  
リンドバーグ それとも折角のストックキングがご婦人の足を包むことなく、もっと無粋な用に使われているということもあるかも知れない。…黙っていても分かりませんよ。ブリジストンさん。

イシバシ …。

リンドバーグ なにも私はあなたがやったと決めつけてるわけじゃあない。ただ200組目のストックキングがどこに行ったのか知りたいだけだ。ねえ、ブリジストンさん。

ハイジ、いきなり立ち上がる。

ハイジ 嘘！ 嘘よ！

クララ ああびつくりした、どつしたのよ。

ハイジ リンドバーグ警部。この調書にはクロード・ベルナルが人を殺したと書いてありますけど…

リンドバーグ そうです。

ハイジ 確かですか。

ヤマグチ 間違いありません。そこに書いてある通りです。

ハイジ 被害者は博物館の管財人だったイシバシ夫人。

ヤマグチ そうです。後の調べでは彼女はベルナルと内通していた事がわかりました。最初からシャロン・ストーンを盗むために働いていた。口封じのため殺されたんです。

ハイジ 内通…。

リンドバーク 何か不審な点でも？

ハイジ ずいぶん今までのやり方と手口が違いますね…。ベルナールは今まで…

リンドバーク そう、人も殺さなければ、共犯者を作る事もなかった。やつもとうとう

本性を顕したってわけですよ。

ハイジ …。

リンドバーク ともあれ…こつちを片づけてしましましょう。ブリジストンさん。…ブ

リジストンさん？

イシバシ …。あ、いや、失礼。

リンドバーク ずいぶん顔色が悪いですよ、ブリジストンさん。

イシバシ (キツパリ) 私は何もしていません。ストックキングは誰かに盗まれたのかも知れない。とにかく私は誰にも渡していないし、自分でそれをどうこつした覚えはないんです。

リンドバーク、じつとイシバシを見ている。

リンドバーク …いいでしょう、部屋にお戻りなさい。

イシバシ、奥へ退場。

リンドバーク 今日のところはここまでだ。

ヤマグチ ヤツですかね。

リンドバーク どうか。相当臭いが…。これ以上はわからん。

ハイジ …リンドバーク警部。

リンドバーク なんです。

ハイジ わたし引き受けます。

リンドバーク 本当ですか。いや、それはよかった。ではさっそく調書で事件のあらましを…

ハイジ 違うんです。そつちのじゃなくて…今朝の事件です。

リンドバーク この事件を？ しかし、この事件はもつこの場ではこれ以上どうしようも…

ハイジ 今朝殺されたのは、ダ・シールっていう遺跡調査の専門家ですよ。

ヤマグチ そうです。身分証明書があります。

ハイジ 2年前、考古学で有名なシャロン博士がこの石を発見した時、調査隊を率いていたのがダ・シールだったってこと、ご存知ですか？

ヤマグチ え？

リンドバーク …それは本当ですか。

ハイジ 私の記憶に間違いがなければ、その時、シャロン博士と一緒に遺跡の検証にあたった教授がもう一人いたはずですよ。

リンドバーク リー・イシバシ教授…。

ヤマグチ 殺されたイシバシ夫人の夫です。

リンドバーク すると、どういう事に…

ハイジ …。

リンドバーク ハイジ刑事。

ハイジ 少し…

ヤマグチ …。なんです？

ハイジ 少し一人にして下さい。  
リンドバーグ … 分かりました。いこう、ヤマグチ君  
ヤマグチ しかし…  
リンドバーグ いいから。

リンドバーグ、ヤマグチ奥へ退場。

クララ …。

じっと考えているハイジに痺れを切らす。

クララ ねえ、ハイジ…。

ハイジ …。

クララ まだ考え中？

ハイジ …。

クララ … あんたって、仕事に入ると暗くなるのね。

ハイジ …。

クララ …。肩でも揉もうか？

沈黙。やがてハイジが口を開く。

ハイジ … クララ。

クララ ん？ なに？ なに？

ハイジ … ハンカチないわね。

クララ はあ？

ハイジ ブリジストンさんのハンカチ…。あんたしまったの？

クララ ううん。

ハイジ そつ…。

クララ … ちよつと、ハイジ。あんたなに考えてんの？

ハイジ お風呂行こうか。

クララ はあ？

ハイジ お風呂。

クララ はあ。いや、だって何も持ってないし…

ハイジ いいの。

ハイジ、とつと外へ退場。

クララ あ、ちよつと、ハイジ！…わけわかんないやつだな…。

クララ、追って退場。

イシバシ、マリー登場。

マリー ねえ、お願い。本当のこといしましょうよ。

イシバシ …。

マリー ねえ、リー。

イシバシ … 家内が

マリー え？

イシバシ 家内が殺されたらしい…。



マリィ ……  
 イシバシ このままだと僕は犯人にされるかも知れない…。  
 マリィ そんな馬鹿な。だって…。

イシバシ マリィ、よく聞いてくれ。あのストッキングのことは誰にも言っちゃいけない。君と僕とは何の関係もないんだ。いいね。

マリィ でも…

イシバシ もし僕が逮捕されても、君の事は喋らない。

マリィ あのね、リィ、あのストッキングの事なただけど…。

イシバシ しッ。誰か来る…。

ラッシャー、ケンプレン奥より登場。

ダンテス あのヤロー神に仕える身のクセしてチクリやがって…憶えてるよ。  
 ケンプレン 隠し事する方が悪いんだ。

コレット奥より登場。

コレット 皆さん！聞いて下さい。ついに分かったんです！

ダンテス 騒々しいんだよおまえは、登場の仕方が。

ケンプレン なにが分かったんだ？

マリィ まさか犯人が？

ダンテス なんだと。誰だ？早く言え。何が分かったんだ。

コレット あいつの名前です。

イシバシ あいつというのは？

コレット ホラ、ブリジストンさん、最初にバルトアンデルスと一緒にいたあの妖怪ですよ。今、本で調べてたら、そっくりな奴が見つかったんです！

一同、呆れた様子。

ダンテス ……いい性格してるよ、実際。

ケンプレン で、なんてやつなんだ。

コレット よくぞ聞いてくれました！

ダンテス 何で聞くんだよバカ。

ケンプレン だども、森の妖怪どもがこんなごちゃごちゃした人臭いところに寄ってくる…。こりゃなんかあるだよ…。

ハイジ、クララ外より戻る。

クララ あら、みんな集まってどっしたんですか。

マリィ あら、あなた…？

クララ あ、そうか。皆さんすいません。あたし変装してたんです。あたし、クララっていいです。こっちは友達のハイジ。

ハイジ よろしく…あの、ブリジストンさん。

イシバシ なんででしょう。

ハイジ お借りしたハンカチ、窓の所に干してあったんですけど、持っていかれました？イシバシ いいえ、私は…。

クララ あちゃー。ゴメンナサイ。あたし無くしちゃったみたい。

イシバシ ああ、いいんですよ。気にしないで下さい。

コレット お取り込み中ですが発表します！

ハイジ なんですか？

マリイ 昨日ここにいた妖怪の名前が分かったんですって。

クララ まあすてき。(ハイジにぶたれる) あいた。

コレット (手帳を見て) あれは、ウーフニックという妖怪です。文献によれば、ウーフニックというのはとても不思議な妖怪なんです。まず、彼らは自分が何であるかを知らない。

マリイ 知らないって、自分の名前を？

コレット そう。そして、自分がウーフニックであることを知るとすぐ死んでしまう。

クララ 死んじゃうんですか？ かわいそう。

マリイ おかしな妖怪ねえ。

コレット でもウーフニックはそれ以外のことでは絶対に死なない。不死身の妖怪なんですよ。すごいと思いませんか。

ダンテス ハイハイ、すげえよ。

ウーフニック、バルトアンデルス窓から顔を出す。

クララ あ、ほら、人の噂も75日よ！

イシバシ …はあ？

クララ あれあれ。(窓を指さす)

一回、不思議そうにクララを見る。

ハイジ …噂をすれば影、と言いたかったようです。

ウーフニック、バルトアンデルス戸口から入ってくる。

コレット いいところへ来た。今ちょうど君の事を話していたんだよ。怖がらなくていから入っておいで…。どうした、ウーフニック。

ウーフニック、一瞬にして絶命。

コレット あッ。

マリイ …死んじやったわよ。

ケンプレン 名前を呼んだでな。

ダンテス いいのか？ そーゆーことして。

コレット うっうっ…。

バルトアンデルス、ウーフニックを引きずって外へ連れ出す。

コレット、呆然と膝をつく。  
駆け寄るクララ。

クララ コレットさん、元氣出して。コレットさんのせいじゃ…

ダンテス せいじゃないか？

マリイ せいよね、どう考えても。

イシバシ 弁解の余地はないでしょうね。

バルトアンデルス、戻って来る。  
ラッシャー、奥より登場。

ラッシャー 皆さん、お集まりですね。どうしましたコレットさん。目に涙なんか浮かべて。

イシバシ そつとしいてあげましょつ。

ダンテス 出たなこのエセ神父。裏切り者。密告者。何とか言ってみる。

ラッシャー はっはっは。

ダンテス …。

ラッシャー さて皆さん、私の話を聞いて下さい。

ダンテス 待て！ 今のはっはっはで全部済ます気が？！

ラッシャー まあまあ落ちついて。

ダンテス これが落ちついていられるか！ まったくこんなところで3日も足止め食わされて痛くもねえ腹探られてよお。

ラッシャー そのお気持ち、よくわかります。誰もが同じです。そこで私、解決策を考えました。

マリー 解決策って？

ラッシャー みなさんをこの苦しみから救済する方法です。さあごつちへ並んで下さい。いいですか。これから私の言う事をよく聞いて下さい。まず、目を閉じて。閉じましたか？

ダンテス 何のマネだよ。

ラッシャー ダンテスさん！ 目を、閉じて。

皆、洪々目を閉じる。

ラッシャー 閉じましたね。いや、声は出さなくて結構。私には分かります。さあ、気を落ちつけて、いいですか。：ダ・シールさんを殺した人は手を挙げなさい。

一同、沈黙。

ラッシャー 大丈夫。皆目をつぶっています。誰にも分かりません。見ているのは神様だけです。さあ、正直に。心を開いて。先生にだけ、本当のことを教えて下さい。

ダンテス やってられっか！ なにが先生だ、誰が先生だ、ああ？

マリー こんな事だと思った…。

一同、目を開ける。

ラッシャー おやおや。

ダンテス おやおやじゃない。

イシバシ ああ、よかった。なんだかフラフラと手を挙げてしまいそうだった。

ダンテス あんたは気が弱すぎる！

ケンブレン おらもう引き揚げるだよ。ついていけねえだ…。

ケンブレン、退場。

ラッシャー しかし他にどんな方法がありますか？

コレット はい！

イシバシ はいコレットさん。

コレット 僕に任せて下さい。  
 ダンテス おまえに任せられることなんかあるかい。  
 コレット いちばん確実に犯人を割り出す方法があります。それは、目撃者の話を聞くことです。

ラッシャー 目撃者…。そんな人がいるんですか。  
 ダンテス いたら苦労しねえだろ、タコ。  
 コレット います。それも皆さんの目の前に。  
 クララ 誰なんです？

コレット この椅子と、この机です！

一同、しらっとした顔で引き揚げかける。

コレット あ、あ、待つて下さい。これからが本筋ですから。あのですね。こいつです。こいつの力を借りるんです。プリジストンさん、僕、昨日言ったでしょう。バルトアンデルスは、椅子やベンチのような、口のきけない物と話をすることができるんだって。ダ・シールさんが殺された時、この椅子や机はここにあったんです。だから…。

マリー 椅子に犯人を聞こうっていつの？

イシバシ …一応、スジは通っているようですね。

ダンテス そうか？ オレなんかアオスジ立ってるぜ。

コレット まあ見てて下さい。…さあ、バルトアンデルス。この椅子に聞いておくれ。話をしておくれ…。

コレット、バルトアンデルスの目の前に椅子を据える。

バルトアンデルス、椅子に近づきじっと見る。

一同、とりあえず成り行きを見守る。

バルトアンデルス、椅子に座る。

イシバシ …休んでますね。

ダンテス こんなこったろうと思ってましたよ、ワタシは。

コレット どうした、バルトアンデルス。おまえの力を見せてくれ。頼むよ。なあ、バルちゃん。

バルトアンデルス、指を一本突き出してぐるぐる回し始める。  
 奇妙な空気が耳鳴りとともに広間を支配していく。

コレット あ、あれ。なんか、おかしいな…僕、は、ぼく…

ダンテス なんだこれ。おい、このバケモン…なに…しゃがる…

クララ なによこれ、あ、なんか気が遠く…ハイジ…

ハイジ …誰？ あたしのこと呼んでるの…。あたしのこと…ママ？ ママ…

コレット …ぼくのオモチャ…ぼくのようないのオモチャがないように…。

マリー あ・そ・ぼ。みんなであそぼーよ。ねー。

イシバシ 皆さん落ちついて下さい。これは幻覚です。

ダンテス (いきなり泣き出す) ママ。ママ。オシッコー！

コレット ぼくのオモチャー。

マリー ねえあそぼー。あそぼーよー。

ハイジ ママ。どこ？ どこいったの？ ママ…

ラッシャー、いきなりクララのスカートをまくりあげる。

クララ なにすんのよーバカー！

ラッシャー ケケケケケ。

イシバシ 女の子をいじめるのはやめるよ。

クララ へんたいー！ ばかー！

ダンテス オシッコー！

ラッシャー なんだおまえ。

イシバシ ぼくは学級委員だ。

ラッシャー はなくそつけちゃえ。

イシバシ あ、なにをする。

マリー あたしもやるー。

イシバシ あ。

ラッシャー やーいハナクソ委員。

ハイジ ママー。おいてかないでよう。ママー！

ダンテス オシッコー！ でちやうよー！

大騒ぎのなか、悦に入って眺めているバルトアンデルス。  
バルトアンデルス、奥から人が入ってくる気配に気づいて、指を引っ込め、戸口から消える。  
嘘のように静まる広間。  
楊、奥から登場。

楊 お食事です。

コレット あれ？

クララ ねえ、今、なにしてたっけ…？

ハイジ ……わかんない。(顔の涙の跡に気づく)……あれ、あたしなんで泣いてんだろ？

ダンテス おお、飯だ飯だ。

ラッシャー おお、もうそんな時間ですか。

マリー なんだかあつという間に時間が過ぎましたわね…。

ソロソロと奥へ引っ込む。

ハイジ あの、神父様。

ラッシャー はい？

ハイジ 一つだけお伺いしたいんですけど…。

ラッシャー ああ、どうぞ。

ハイジ、皆がいなくなるのを待って、続ける。

ハイジ ゆうべダ・シールさんと廊下ですれ違ったと仰いましたよね。

ラッシャー ハイ。

ハイジ ダ・シールさんはその時、廊下のどちらの方から歩いてきたのか憶えてらっ

しゃいますか。

ラッシャー ええと…ああ、そうだ、たしか突き当たりの方からでした。ちょうど私の部屋はダンテスさんの部屋の向かいですので、ドアから出て廊下を渡ろうとした時、ダ・シールさんにいきあつたんです。

ハイジ ……突き当たりの方。ありがとございました。  
 ラッシャー どういたしまして。……期待してますよ。少女刑事さん。

ラッシャー、奥へ退場。

リンドバーク、ヤマグチ外より戻る。

ヤマグチ 飯の時間のようですね。

リンドバーク 考えはまとまりましたか？ ハイジ刑事。

ハイジ ……犯人はこの山荘の中にいます。

ヤマグチ そ、そうだったのか……ってそんなこと分かってますよ！

ハイジ 本当に？

ヤマグチ 君ね、人を馬鹿にしてるんじゃないだろうね……。

リンドバーク ヤマグチ君。そうじゃないよ。彼女の言っているのは……。

ハイジ わたしが言っているのは、シャロン・ストーンを盗んで、イシバシ夫人を殺した犯人の事ですけれど。

ヤマグチ え？ いや……だって。

リンドバーク とにかく、食事を済ませてしまいませんか。お手並みはゆっくり拝見しましょう。

リンドバーク、ヤマグチ退場。

クララ あんた、ホントなに考えてんの？

ハイジ ……行きましょ。

ハイジ、クララ退場。

再び時が移り、夕闇が迫る。

リンドバーク、ヤマグチ、イシバシ登場。

ハイジ、クララ登場。

クララ ま、また食べ過ぎた……。

ハイジ あんたまでついてこなくていいのに。

リンドバーク さてプリジストンさん。今度は私じゃなくてこのハイジ刑事から2、3質

問があるんです。

イシバシ 刑事……君が。

ハイジ (手帳を出して見せる) プリジストンさん。殺されたダ・シールさんにはこの山荘で初めて会ったそうですね。

イシバシ はい。

ハイジ 本当ですか？

イシバシ どういうことですか。

ハイジ 4日前、博物館から盗まれたシャロン・ストーンのことをご存知ですか。

イシバシ なんでも、古代の遺跡から発掘されたそうで……

ハイジ そう。その発掘を指揮したのがダ・シール。彼を雇ったのがシャロン博士。そして共同研究者のイシバシ教授。

イシバシ ……。

ハイジ 見つかった発掘品のなかでももっとも価値のある石塔、その名前には考古学の権威であるシャロン博士の名がつけられた。イシバシ教授の心中は穏やかじゃなかったでしょうね。

イシバシ それと私とどういう関係が…  
ハイジ お部屋はダンテスさんの隣でしたね。  
イシバシ …。そうです。

ハイジ 昨晚、ダンテスさんの部屋の窓に人影が映るのを、ラッシャー神父が目撃しています。ご存知の通り2階には古い非常階段がありますね。さっき外からみた限りでは、あなたの部屋の窓から手を伸ばせば手すりがつかめる距離でした。ただそうするにはダンテスさんの部屋の窓を横切らなければ…。

イシバシ なぜ私がそんな事を…。

ハイジ あなたが、イシバシ教授ご本人だから。

イシバシ …。

ハイジ あのハンカチにイニシャルの縫いとりがしてありました。L・Iって。

リンドバーグ エル、アイ…リー・イシバシ…か。

ハイジ あなたが、イシバシ教授ですね。

イシバシ …。私は。

ハイジ よけいな事は言わなくてもいいんです。ただあなたがイシバシ教授であるという事がわかれば。

イシバシ …。私がイシバシです。

ハイジ ハンカチを取り戻す為にあなたは危険を冒して非常階段を伝って広間の外に降りた。そうですね。

イシバシ …。はい。

ヤマグチ どうしてそんなことをする必要が…。

ハイジ どうしてもそうせざるを得ない理由ができたから…違いますか？

イシバシ …。

ハイジ 昨日の晩、ダ・シールさんと二人きりで話されましたね。

イシバシ (はッとしてハイジを見るが、肩から力を抜く)…。はい。

ハイジ どんなお話でしたか。

イシバシ 口止め料を要求されました。こんなところでウロウロしていると、とんでもない罪を着せられるぞと。彼はシャロン・ストーンが盗まれた事を知っているよかったです。あんたがイシバシである事が知れると大変なことになると。それで私は怖くなって…。

ヤマグチ ダ・シールが知っていた？ そんなバカな…！

ハイジ もう結構です。部屋にお戻りになって下さい。

リンドバーグ プリジスト…いやイシバシ教授。今日はわれわれの部屋で休んで頂きませう。ご自分の部屋には立ち入らないように。いいですね。

イシバシ …。わかりました。

イシバシ、奥へ。

ハイジ イシバシさん…。奥さんのこと、お悔やみ申し上げます。

イシバシ …。

イシバシ、一礼して退場

リンドバーグ …。お見事。

ハイジ …… ラッシャー神父が、ダ・シールさんは廊下の突き当たりの方から来たって  
 言ってたんです。だから…。

ヤマグチ というと…？

リンドバーグ ダンテスの部屋から廊下の突き当たりまでの間にある部屋は、3つだけ  
 だ。われわれの部屋。彼女達の部屋。そしてイシバシ教授の部屋…。ダ・シール  
 が誰かの部屋から出てきたとすれば、奴の部屋しかない。

ヤマグチ ということは…？ エート、何が問題かと言うと…。

ハイジ 問題は動機です。なぜダ・シールが殺されたのか。

リンドバーグ 口封じ、か。

ハイジ そうです。ダ・シールは都の事件のことを知っていた。3日も前からこの山荘  
 に泊まっていた彼がね。

ヤマグチ そう、そうですね。それは嘘だ。時間的にいつて知っているはずがない。

リンドバーグ 前もって知っている場合を除いてはね。

ハイジ 恐らくはイシバシ夫人と同じ、共犯。そしてイシバシ夫人と同じように口封じ  
 のために殺された…。

ヤマグチ つまりこの山荘にベルナルがいるということですね！

ハイジ 私はシャロン・ストーンを盗んだ犯人がこの山荘にいたんです。

ヤマグチ だからそれがベルナルでしょ。

ハイジ いいえ、違います。

ヤマグチ いや…違いますよ。

ハイジ ベルナルは人を殺しません。

ヤマグチ それが殺したんですよ。

ハイジ だからそれはベルナルじゃないんです。

ヤマグチ 分からないな、あなたのいうことは。

リンドバーグ とにかく問題は、200組目のストッキングだ。犯行に使われたのは一  
 枚。200組目の片割れがどこかにあるはずだ…。

楊、奥より登場。

楊 そろそろ明かりを消しますので…。

リンドバーグ 今日はもう遅い。部屋に戻りましょう。続きは明日だ。

リンドバーグ、ヤマグチ、ハイジ、クララ退場。

暗転。



## 第2幕 《妖怪》

朝。広間にコレットが座っている。  
バルトアンデルス、ア・バオ・ア・クー、ウーフニックがいる。  
クララ奥より登場。

クララ コレットさん…。

コレット あ、えーと…。

クララ クララ。

コレット すいません。僕は妖怪の名前はすぐ憶えるんだけど人間の名前は苦手で…。

クララ 好きなんですね。妖怪が。

コレット (照れ笑い) まあ…。

クララ 人間の女の子は嫌いなんですかあ？

コレット え、いや…その…。

クララ 妖怪の種類なんか見ただけで分かるんですか？

コレット まあ、たいがいは…。

クララ すごおい。

コレット あ、これはバルトアンデルス…これがア・バオ・ア・クー。これがウーフ

ニック…。

ウーフニック、一瞬にして絶命。

コレット あッ。…また…。

ア・バオ・ア・クー !

ウーフニック、引きずられて退場。

コレット 僕は…なんてことを…。

クララ コレットさん、元気出して…。ね。

コレット っつっつ…。

クララ おお、よしよし。

ハイジ、奥より登場。

ハイジ (咳払い)…。おはようございます。

クララ あら、ハイジ。

コレット 僕、ちよつと、気分が優れないので…失礼します。

コレット、退場。

クララ あ、コレットさん。…ちッ。

ハイジ おはよう。

クララ おはよ。へへへ。

ハイジ へへへじゃないわよ。朝から姿が見えないと思ったら…ホントに手が早いんだから…。

クララ あんたみたいにウブじゃないもん。

ハイジ クララ、聞いて。…あの人はやめときなさい。

クララ なによ、マジな顔しちゃって。

ハイジ あたし、真剣に忠告してんのよ。あんたの為にならないんだから。

クララ ちよつとハイジ…。

ハイジ あんたのために言ってるのよ。

クララ いい加減にして。ハイジ、あんたね、何でも分かってるつもりかも知れないけど、何にもわかってないわよ。

ハイジ クララ…。あたしは…。

クララ あんたは友達だけど、あたしあんたに命令されるような覚えはないわよ。

ハイジ なにも命令なんてしてないわ。

クララ コレットさんのどこがいけないの。あの人が犯人だともいうの。

ハイジ そういうわけじゃないけど…でも容疑者であることに変わりはないんだから、せめてハッキリするまで…。

クララ それがおせっかいだって言うのよ。あんた何様のつもりなの！

ハイジ そんな言い方しなくてもいいでしょ。

クララ 冗談じゃないわよ。あんたなんか頭でっかちのガキよ。

ハイジ なによこの尻軽女！

クララ はん。シヨジョの・く・せ・に。

ハイジ あんたに関係ないでしょ！

クララ こっちのセリフだわ。シヨ・ジョの・く・せ・に。

びいっとソップを向き合つ二人。

リンドバーク、ヤマグチ登場。

リンドバーク おはよう、ハイジ刑事。

ハイジ …。

リンドバーク もしもし。

ハイジ …すみません。おはよつございます。

リンドバーク ハイジ刑事。どうもご協力ありがとうございました。イシバシ教授をこの事件の容疑者として、身柄を拘束することにしました。

ハイジ どうして？ なにか証拠がでたんですか？

リンドバーク 実は今朝早く、彼の部屋のベッドのソファから…これが…(ストッキングの片方を出してみせる)

ヤマグチ やつがベルナルルですよ。間違いありません。

ハイジ 違います！

ヤマグチ どうしてそう言いきれんんです。ベルナルルの素顔を知ってるんですか？

ハイジ それは…。(首を横に振る)

リンドバーク とにかく動機の点からいっても彼は資格充分だ。それとも彼ではないという確証がありますか？

ハイジ …。

リンドバーク 言って下さい。根拠のある話ならわれわれも拝聴したい。

ハイジ ベルナルルは…。人を殺しません。

ヤマグチ またそれですか。…話にならないな。

リンドバーク 仮にイシバシがベルナルルでないとして、では彼がダ・シールを殺さなかつたという根拠は？

ハイジ ……ありません。

リンドバーグ 物的証拠が出ている以上、われわれとしても放置するわけにはいかないんですよ。あなたも警察官なら分かるはずだ。

ハイジ ……。

ヤマグチ 警部、行きましょつ。これ以上話しても…。

リンドバーグ それでは、残念ですが…。

リンドバーグ、ヤマグチ退場。

クララ ハイジ、いいの？…あんだ、イシバシさんじゃないって思ってたでしょつ？

ハイジ ……。

クララ じゃどうしてもっと強く言わないの？ どうして真犯人捜そうとしないの？

ハイジ 黙ってよ…。

クララ このままじゃイシバシさん犯人にされちゃうよ。

ハイジ ……。

クララ ハイジ！

ハイジ ほつといてよ！

外に飛び出すハイジ。

クララ ハイジ、どこ行くの！

ハイジ ついてこないで！

ハイジ、外へ退場。  
暗転。

森の中。

ハイジ下手より登場。

ラッシャーの影、森の奥よりすつと登場。

ラッシャーの影 お嬢さん、お嬢さん。泣かないで。

ハイジ ……神父様。

ラッシャーの影 泣いちゃいけない。

ハイジ 泣いてなんかいません。

ラッシャーの影 でもあなたの泣き声が聞こえた。

ハイジ わたし…。

ラッシャーの影 ねえお嬢さん。あなたにはすつと気にかかっている事があるんですよ？ でもそれを人に言えずに悩んでいる。そういう時のために私のような神に仕えるものがあるんですよ。

ハイジ でもあたし、無神論者だから…。

ラッシャーの影 神を信じろとは言いませんよ。でもね、神を信じる前に人を信じるこ

とは、悪い事じゃないでしょつ？

ハイジ 私、刑事ですから。

ラッシャーの影 人を疑うのが商売ですか。でもお嬢さん、自分まで疑っちゃいけない。

ハイジ ずいぶんまともな事を言っんですね。人が違ったみたい。

ラッシャーの影 わたし、影ですから。

ハイジ 影？ 影ってなんですか？  
 ラッシャーの影 森の生みだした影。森は人の心を映すんです。あなたの中の他人をね…。

ラッシャーの影、森の奥へと消える。  
 ラッシャーの影と入れ替わりに、クララの影登場。

クララの影 だいたいあなたはね、ウジウジ考え過ぎなのよ。  
 ハイジ クララ？

クララの影 刑事なんですよ。もっとしつかりしなさいよ。

ハイジ そうよ、刑事よ。だから…だけど…あの人が人を殺したなんて信じないもの。  
 信じたくないもの。

クララの影 そう言いながら疑ってるでしょ。だからハッキリさせたくないんですよ。  
 もしあの中にベルナルがいたら…もし本当に彼が人殺しだったら…それが怖いんですよ。

ハイジ キツイこと言うのね…。

クララの影 あんたが本当にベルナルを信じているなら、ハッキリさせるべきよ。誰がなんて言おうと、本当のことをハッキリさせるの。逃げちゃダメよ。勇気を出すの。

ハイジ 簡単に言わないでよ！

クララの影 …。ハイジ。

ハイジ あんただってわかんないじゃないの！ あたしの気持ちなんか、わかんないじゃないか！ あたしが刑事でいる限り、あたしはあの人を追いかけていられる。でも、刑事でいる限りあたしはあの人を敵なのよ。

クララの影 敵でもいいじゃん。追いかけていられるんなら。

ハイジ 気楽な事言わないでよ。

クララの影 ああ、わたしは気楽よ。だってわたしはあなたの影だもの。

ハイジ わたしの影ならなおさらよ。無責任じゃないの。

クララの影 そうかしら…。じゃあ、あなたは…いったい何に対して責任があるっていの…。

ハイジ …。

クララの影 じゃあね…。

ハイジ クララ…！

クララの影 バイバーイ…。

クララの影、森の奥へと消える。  
 クララの影と入れ替わりに、ケンプレンの影登場。

ケンプレンの影 …妖怪ども、今日はやけにおとなしいだな。

ハイジ ケンプレンさん？ なんでここであなたが出てくるの？

ケンプレンの影 妖怪というのはつくづく不思議なもんだな。人間とこんなに近いところにいるのに、人間には決して馴染まねえ。そうかと思えば、人間自身にもわからねえ人間の心の奥底まで見すかしてるようでもあるし。

ハイジ そうね、不思議ね。

ケンプレンの影 どうしてこの世は、人間だけでもねえ、妖怪だけでもねえ、人間と妖怪のいる世の中なんだべなあ。

ハイジ 哲学的な事考えてるのね、ケンプレンさん。

ケンプレンの影 考えてるのはおらじゃなくてあんただよ。ハイジさん。この世がどうしてこんな風なの世なのか、人はそれが知りたくて知りたくて、身も世も焦がれるほど知りたくて知りたくて、それでいろんなことをするだ。人が生きてくのに用のないこと、あぶねえことやよくねえこと、なんでもするだよ。

ハイジ そうね…。シャロン・ストーンだってそうよね。古代の遺跡を掘り返すのだったそう…。

ケンプレンの影 妖怪の言葉を分かるうとするのも、読めもしねえ昔の言葉を読もうとするのも、自分が誰なのか知りてえからさ。

ハイジ 自分が誰なのか…。

ケンプレンの影 あんたには分かっているだか。自分が誰なのか…。

ハイジ あたしはハイジよ…。ハイジ・コーネル。アルプスの、少女刑事…。

ケンプレンの影、森の奥へと消える。

ハイジ、座り込んで、ウトウトしはじめる。

森の奥から妖怪たちが現れる。

ウーフニック、バルトアンデルス、ア・バオ・ア・クー、チョンチョン、キルケニー、ゴダロ。

妖怪たち、ハイジを囲む。

バルトアンデルス やれやれ。こんな所まで人間がやってきたのは久しぶりだね。

チョンチョンA どうしようか。

チョンチョンB どうしようか。

キルケニーA くつまおう。

キルケニーB 馬鹿言うな。

キルケニーA 馬鹿とはなんだこのとんま。

キルケニーB とんまとはなんだこのとんちき。

バルトアンデルス よしなよ。なんだってあんたらはそう仲が悪いのかね。

ウーフニック こいつどうする？

ゴダロ ほっといたら気づくだろ。ほっとけばいいよ。

バルトアンデルス だいたいちよっと思いがってるね、この子は。

ア・バオ・ア・クー それを言ったら人間はみんなそうだ。

ウーフニック でもさ、少しはマシなんじゃない？

チョンチョンA おんなじだよ。

チョンチョンB おんなじだよ、人間はみんな。

ア・バオ・ア・クー 俺たちみたいにバラエティに富んではいないな。

チョンチョンA おんなじような顔してウジャウジャウジャウジャ。

チョンチョンB ウジャウジャウジャウジャ。

ゴダロ 変わってるよ、人間てやつあ。

キルケニーA で、どうする。

キルケニーB 聞いてなかったのか、ほっとくんだよ、バカ。

キルケニーA なに、バカだと、自分をバカにするな間抜け。

キルケニーB 間抜けとはなんだボケナス。

キルケニーA ああ自分が情けない。

ウーフニツク ずいぶん傷ついてたみたいだぜ。こんなところで自殺でもされたらまた人間が押し掛けてきて面倒だよ。

ア・バオ・ア・クー それもそうだな。

ハイジ …… @ ……

バルトアンデルス お目覚めのようだよ。

ハイジ (目覚める) & …… x x ……

チョンチョンA 「ここはどこ?」

チョンチョンB 森だよ森。

ハイジ & …… = ……

バルトアンデルス 「そうか、あたしねむっちゃったのね…」

ア・バオ・ア・クー そういうこと。

ハイジ ……

キルケニーA 「なんか、夢を見ていたみたい…」

キルケニーB 夢じゃねえんだバカ。(殴る)

キルケニーA 俺じゃねえこいつが言ったんだ! (殴り返す)

ハイジ …… …… § @ \* ……

ゴダロ 「なんとなく憶えてるわ…森が見せてくれた夢…」

バルトアンデルス 不思議な事は何でも夢で片づける癖があるよね。人間は。

ハイジ …… ¥ £ # \* ……

キルケニーB 「なに言ってるかわかんないけど、きつと励ましてくれてんのよね」

キルケニーA どうしてそう身勝手なんだ!

ア・バオ・ア・クー いいんじゃないの、素直で…。

ハイジ …… £ …… & ……

チョンチョンB 「…そうよね。すつきりさせなくっちゃ…」

チョンチョンA お、立ち直ってきたな。

ハイジ £ % # & \* @ § …… = ……

キルケニーA・B 「いつまでもウジウジしてたってしかたない」

ハイジ ¥ …… # @ …… £ ……

妖怪たち 「そうよ、好きなものは好きなんだ」

ハイジ …… # § …… ! ……

妖怪たち 「信じたいものを信じる事のどこが悪い!」

ハイジ、妖怪たちの方を振り返る。

ハイジ ……

妖怪たち 「ありがと。あたし、もう平気」  
バルトアンデルス なんにもしてないけどね…。

ハイジ ……

ハイジ、駆け出す。

ハイジ ……

ハイジ (振り返って手を振る) …… !

妖怪たち 「さよなら!」

ハイジ、退場。

バルトアンデルス …… いっちゃったよ。

ゴダロ 実際、変わってるねえ、人間てのは…。

暗転。

## 第3幕 《ベルナール》

山荘。

クララ、珍しく深刻そうな顔で待っている。  
ハイジ、外より登場。

ハイジ よッ。

クララ ハイジ！ どこ行ってたの。

ハイジ ヘー。心配した？

クララ まったくもう。

ハイジ ゴメンね。それよりさあ、みんなまだいる？ 帰っちゃった人いない？

クララ うん。明日、都から応援部隊が到着するから、それまではいてもらっただって。

ハイジ まにあった。いそがなくなっちゃ。

クララ あ、ちよつと、ハイジ。どうするの？

ハイジ まずマリーさんに会うのよ。

ハイジ、奥へ退場。

クララ あ、ねえ、ちよつと、マリーさんならさつき外へいったわよ！ なにあれ…。

コレット、外より登場。

コレット ううう…。またやってしまった。ごめんよ、ウーフニク…。

クララ あ、コレットさん。

コレット どうかしましたか。クララさん。

クララ ハイジが帰ってきたんですけど、なんか妙に元気なんで調子が狂っちゃって…

マリー、ハイジ奥より登場。

ハイジ ねえクララ、マリーさんは？

クララ だから外へ行ったって言ったじゃ…

ハイジ あ、コレットさん、ちよつとよかった。

コレット はい？

ハイジ ちよつと、お願いがあるんです。

コレット お願い？

ハイジ ダンテスさんとラッシャー神父、どこにいるかご存知ですか。

コレット ああ、さっきまで外で散歩してたようですけど…

ハイジ 夕食の時間まで、あの二人を外にひきとめておいて欲しいんです。

コレット はい？ どういうことですか？

ハイジ 大事な事なんです。お願いします。

コレット ええ、だけど…

ハイジ ホラ、あんたからもお願いして。

クララ え、あ、お願いします…。

コレット わ、わかりました。なんだかよくわからないけど。とにかくやってみます。

コレット、外へ退場。

ハイジ よしと。  
 クララ よしと、じゃない。あたしゃ何がなんだかわからないわよ。

マリー、外より登場

ハイジ マリーさん。

マリー なあに。

ハイジ お話があります。

マリー なにかしら。

ハイジ あなたに協力して欲しいんです。

マリー 協力って、何の？

ハイジ 犯人逮捕のため。

マリー あたしに協力できる事なんて…。

ハイジ それがイシバシ教授を救うためにでも？

マリー …。

ハイジ マリーさん。

マリー あなた…何を知ってるの？

ハイジ 知っているのはあなたです。それを私に教えて欲しいんです。本当の事を。

マリー …。

ハイジ お部屋に伺ってもいいですか。

マリー … いきましょう。

ハイジ、マリー奥へ退場

クララ、追って退場

時が移り、夕闇が迫る。

リンドバーグ、ヤマグチシ登場。

ハイジ、クララ登場。

クララ 今日は食べ過ぎなかつたぞ。

ダンテス、ラッシャー、マリー、コレット、ケンプレン、相次いで登場。

ダンテス よう、警部さん。いくらなんでもやりすぎじゃねえのか。俺達がいけない間に  
 ラッシャー やはりそうですか。実はわたしも…。

部屋を調べるなんてのは。

コレット 僕の部屋も荒らされました…。

ケンプレン ああ、そういえばおらも…。

リンドバーグ 私じゃありませんよ、やったのは。

ダンテス 他に誰がやるってんだよ。

ハイジ 私です。

ダンテス なにに？

ハイジ リンドバーグ警部。私の推理は、シャロン・ストーンを盗んだ犯人と、ダ・

リンドバーグ シールを殺した犯人が同一人物であるという仮定に基づいたものでした。

ヤマグチ そして、犯人はイシバシ教授だった、と。



ハイジ でももしこの出発点が間違っていたとしたら、捜査は振り出しです。そうでしょう？

ヤマグチ しかし彼の部屋からストッキングの片方が出てきたんですよ。

ハイジ それについては、マリーさんに伺って下さい。

マリー …あのストッキングは私がリーから…イシバシ教授から頂いたものです。

ダンテス なにッ。

マリー 一昨日の夕食の後、部屋に戻ってから、頂いたストッキングがないことに気づいたんです。

ダンテス ああ、あの痴漢騒ぎの時から…。

マリー お風呂場に置き忘れたんだと思います。昨日覗いてみると、やはりありませんでした。ですからあの晩…

ハイジ ストッキングを盗む気になれば、誰でもできたんです。

ヤマグチ 待って下さい。あなたは教授と知り合いだったことを隠していたわけでしょう。愛人てわけだ。あなたがたが組んで、二人にとって邪魔なイシバシ夫人を殺

し、それをネタにゆすっていたダ・シールをも殺した。そうじゃないんですか。ハイジ その可能性もあります。…だから、捜すんです。

ヤマグチ 捜すって…。

リンドバーグ シャロン・ストーンを、ですな。

ダンテス そんなら真っ先にイシバシの部屋をしらべりゃいいじゃねえか。なんで俺達まで…

リンドバーグ イシバシ教授の部屋は調べました。

ヤマグチ 自分の部屋じゃない所に隠したってこともありますね。

ハイジ この山荘の事件がもし、シャロン・ストーン盗難とはなんの関わりもないものだったら…。捜査は一からやり直します。そしてもしこの山荘のどこから

シャロン・ストーンがでてくれば…

コレット 犯人はイシバシ教授…

ハイジ 明日の朝から、応援部隊が到着するまで、もう一度この山荘中を捜します。徹

底的に。その間、皆さんは自分の部屋を出ないで下さい。

リンドバーグ いいでしょう。やってみる価値はある。いずれにしろ、明日で終わりだ。

暗転。  
夜。

寝静まった広間。

懐中電灯の光が部屋をなめる。

何者かが広間に入ってくる。

人影は机の向こうにうずくまってなにことをしている。

人影が立ち上がる。

突如、光が人影を照らす。

コレットである。

その手にシャロン・ストーンがある。

ハイジ (声) 今晩は。コレットさん。

広間に明かりがともる。

ハイジ、クララ、リンドバーグ、ヤマグチ。

ハイジ こんな夜中に何をしてらっしゃるんです？  
リンドバーグ …珍しいものをお持ちですな。コレットさん。

ヤマグチ そんなところに隠してあったとはねえ。  
コレット 罾…か。

ハイジ そうよ。あなたがどうしてもイシバシ教授に罪を着せたがっているから。ああ  
いえば、どこかに隠したシャロン・ストーンを、既に捜査済みの自分の部屋に回  
収するはず…。そう読んだわけ。

コレット たいしたものだ…。

コレット、すばやく動いて、クララを盾にとる。

クララ きゃ。

ハイジ クララ！

コレット 動くな…。道をあけな。

クララ 冗談でしょ…。

コレット じゃあな。

戸口でクララを突き飛ばし、外へ逃げるコレット。

ハイジ (駆け寄り) クララ！

リンドバーグ 追え！

リンドバーグ、ヤマグチ外へ退場。

クララ あんたもいいから行きなさい。

ハイジ でも…

クララ 追え！

ハイジ はい！

ハイジ外へ退場。

クララ あんの妖怪オタク…。許さん！

クララ、追って退場。

妖怪たち、山荘を森にする。

コレット、森にかけ込んでくる。  
ハイジ、追いつく。

ハイジ もう終わりよ、逃げられないわ。

コレット そうかな。

ハイジ どうしてダ・シールを殺したの。

コレット 俺は完璧主義者なのさ。あの野郎はてめえで手をよこさねえで、俺をゆすり  
にかけやがった。もともと山荘で落ち合う段取りだったが、ついてびっくりさ。  
当のイシバシ先生が、お忍びで逢い引きとは。だが好都合でもあった。ダ・シー  
ルを片づけてその罪をおつかぶせるのにはな。シャロン・ストーンを盗んだのは  
ベルナール。ダ・シールを殺したのはイシバシ。そういう筋書きだったんだよ。  
あんたさえいなけりゃな。

ハイジ あいにくね。ベルナールは決して人を殺さない。他の人間はだましてもあたしには通じないわ。

コレット ベルナールか。あの気取った悪党に人殺しの汚名をかぶせてやりたかったが、それはいい。こいつはもう俺のもんだからな。

ハイジ それを渡して、自首しなさい。

コレット 力づくでさせてみなよ…。

ハイジ …。

コレット いいことを教えてやるぞ。こいつの本当の使い道をな…。

コレット、シャロン・ストーンを高く掲げる。  
妖怪たち、森から現れる。

コレット 俺は妖怪の王になるのさ。こいつらを手足のように従えて、人間どもに一泡吹かせてやる…。

ハイジ あ…。

コレット 動けまい。こいつは博物館のお飾りとしてホコリをかぶるために掘り出されたわけじゃねえ。爺いどものシミだらけの手でいじり回されるためにあるんでもねえ。こいつはかつて妖怪たちを意のままにあやつっていた古代人たちの道具…。

ハイジ …。(動けない)

コレット 口ではキレイ事並べてもなあ、ベルナールのキザ野郎だってそれ狙ってるのや。

ハイジ ち、がう…わ…。

コレット じゃあな、お嬢さん。…(妖怪たちに)さあ、いけ。あいつを殺せ…！

妖怪たち、動きだす。

コレット (笑つ)…は？…おい、なんだよ、俺じゃないだろ…あつちだ…おい！ 待て！ これが、わかんねえのか…！ おい！

妖怪たち、コレットを押し包む。

コレット 体が見えなくなり、悲鳴のみが聞こえる。

コレット、気絶して横たわっている。

妖怪たち森の奥に消えていく。

ウーフニック、シャロン・ストーンを手に最後に残っている。

木陰から手が伸びる。

ウーフニック、その手にシャロン・ストーンを渡し、去る。

手の持ち主、現れる。

ケンプレンである。

ケンプレン 相変わらず、無茶する娘だね。

ハイジ ケンプレン、さん。

ケンプレン 本物のケンプレンはとっくに街で稼いでるさ。

ハイジ あなた…誰？

ケンプレン 俺が名をかたられて黙って引っ込んでると思ったのか？

ハイジ ベルナール…！ まさか、あなたが…！

ケンプレン ずいぶん久々じゃないか。腕がなまったかな。

ハイジ コレットの後をつけて来たのね…。  
 ケンブレン また会おうぜ。そうそう。こいつは俺も狙ってたんだ。あんたのボディ  
 ガード代つてことで、もらってくぜ。

ハイジ ま…待って…。

ケンブレン またどつかで会おう。あんたくらいの骨のあるのじゃねえと張り合い甲  
 斐がないからな…。

ハイジ ベルナル…

ケンブレン じゃあな、刑事さん。

ハイジ ベルナル！

ケンブレン、退場。

リンドバーク、ヤマグチ、クララ登場。

クララ ハイジ！ どうしたの！ 大丈夫？

ハイジ 平気…。

ヤマグチ (コレットを調べる) 気絶してるだけです。

リンドバーク 連行しろ。…ハイジさん。ご協力ありがとう。噂にたがわぬ働きぶり  
 です。

ハイジ いいえ…。ベルナルを逃がしてしまっ…

リンドバーク ベルナルがここに…？

ヤマグチ 警部！ こんなものが！

コレットの背中に紙片がついている。

ヤマグチ コレットの背中に…。

リンドバーク …親愛なる刑事どのへ。このたびゾーゲンハム博物館所蔵の古文書、頂  
 戴いたすことになりました。1週間の後、深夜12時きっかりに頂きに上がりま  
 す。…追伸。当方書状のお約束たがえし事とて無く、如何なる警備も御無用につ  
 き、悪しからず。あなたの、C・B。

ヤマグチ 今度はホンモノですかね。

ハイジ ええ、きつと。

リンドバーク ヤマグチ君、戻るぞ。

ヤマグチ はい。

リンドバーク 急げ！

リンドバーク、退場。

ヤマグチ、二人に敬礼して退場。

クララ …いきたいんですよ。

ハイジ なにが。

クララ まあとぼけてちゃって…。あんたの顔見てりゃね、分かるのよ。

ハイジ …でもさ。

クララ 行きなさいよ。あたし、街に戻るから。

ハイジ いいの？

クララ いいから行きなさい。あんた刑事でしょ？ それも親愛なる刑事どの。

ハイジ ありがとう、クララ。  
クララ 行った行った。

ハイジ、駆けて退場。

クララ ちよつと前見なさいよ危ないわよ…あ、転んだ。…もつあの子は…

クララ、退場。

リンドバーク、ヤマグチ、ハイジ登場。  
帰り姿のイシバシ、マリー、ラッシャー、手を振って通り過ぎる。クララも手を振る。  
それぞれの方角へと退場

森の妖怪たちが顔を出す。

手に取ってあそんでいるのはシャロン・ストーン。

幕。